

理念なき実践は暴挙であり

実践なき理念は空虚である

クラブ改革提言III

21 世紀特別委員会 PartIII 報告書

国際ロータリー第 2840 地区

前橋ロータリークラブ

2006 年 6 月 20 日

継 続 は 力 な り

継続して行う事柄は容易に行えるようになる。

それは物事の性質が変わるからではなく

わたしたちの力が増すからである。

ラルフ・ウォルド・エマソン

21世紀特別委員会partIII 報告書 目次

[本 編]

ご挨拶	2005－2006 年度 前橋ロータリークラブ 会長 平出昌男	2
1. 提言の要約 (本委員会活動概要と今回の提言要旨)		4
2. 会員満足度アンケート		
(1) 第3回会員満足度アンケート結果		6
(2) 会員満足度アンケート結果分析 3年比較		12
3. ビジョンアンケート		
(1) ビジョンアンケート結果		16
(2) ビジョンアンケート結果分析		23
4. 具体的提言		26
5. クラブ細則改訂のポイント		31
6. 次年度に向けて	21 世紀特別委員会委員長 鳥本安彦	37
パスト会長メッセージ	パスト会長 江原 毅	38
	直前会長 山田美光	
委員会メンバー所感		40

[資料編]

① 委員会活動記録	45
② 会員満足度アンケート フォーマット	46
③ ビジョンアンケートフォーマット、クラブ・会員の理想像	49
④ CLPに基づく推奨ロータリークラブ細則 (R1)	54
⑤ クラブ強化と地区改革 RID2840 2005-06 ガバナー曾我隆一	60
⑥ 第3期委員会名簿	72

ご 挨 拶

継続は力なりー活力あるロータリークラブをめざして

前橋ロータリークラブ 2005-2006年度会長 平出昌男

2003-04年、江原会長は前橋ロータリークラブが創立50周年を迎えるにあたり、“更なるスタート50年ー歴史と伝統を超えてー”をテーマに、更なる飛躍を願い、新たなる歴史と伝統を構築すべく“21世紀特別委員会”を創設いたしました。前橋ロータリークラブの現状把握のため、「会員満足度アンケート」・「クラブ活力テスト」を実施し、会員・クラブの現状認識をもとに「クラブの理想像・会員の理想像」をまとめ、現状とのギャップを埋めるべく提言を行い、新しい歴史と伝統への想いがスタート致しました。

2004-05年、山田会長はさらに具体的な、身近な課題である (1)委員会の活性化 (2)組織の活性化 (3)社会奉仕と広報について というテーマを設け、3分科会にて議論を深め、より現実的な問題点・改善策の提言を致しました。同時に初年度の提言の中から実現可能な項目を実行し成果を挙げてまいりました。

3年目の今年度2005-06年は、1年目・2年目の提言の中から引き続き実行できる項目を進めてまいりました。と同時に新たに“クラブ・リーダーシップ・プラン”(CLP)の導入による“推奨ロータリークラブ細則”が大幅に改定されたことを受けて、当クラブの現状に合わせたの細則改正、委員会構成、理事・役員の選考方法を検討し、具体案を提案いたします。

また「会員満足度アンケート」・「ビジョンアンケート」の結果をもとに、会員歴別3グループによる未来に向けた前橋ロータリークラブのあるべき姿を語る懇談会を開催し、出席会員の意見をもとに議論を深めることが出来ました。

21世紀委員会も3年を経過し、前橋ロータリークラブの現状把握、クラブ・会員の理想像の立案、それに近づくべく多くの提言をしてまいりました。また提言の中から実現可能なことは実行してきましたが、まだまだ道半ばであり、

永遠のテーマでもあります。

今後は会員の皆さまにこの報告書に対するご意見、そしてご理解をいただきながら、所期の目標の達成に向けて努力を継続していくことが必要と考えております。

途切れず続けることが、少しずつ努力を重ねることが大切であると考えます。物事には色々な面があります。続けることで物事の別な面が見えてきます。それが新たな力となり、クラブ活力に更なる力がついてくると考えています。

“継続は力なり”であり、2006－07年、吉田会長年度の委員会構成はCLPを大きく意識したものとなっており、今日までの21世紀委員会理念は次年度へと引き継がれていくものと思われまます。

3年にわたり活動にご理解を頂いた会員の皆さま、委員会運営に多大なお力添えを頂いた鳥本委員長を始めとする委員各位、オブザーバーとしてご意見を頂いた皆様、毎回会議室をご提供いただいた群馬セキスイハイム(株)様に心よりの御礼を申し上げます。

平成 18 年 6 月 6 日

提 言 の 要 約（本委員会活動概要と今回の提言要旨）

「21世紀特別委員会」は一昨年の江原年度に始まり（PART I）、昨年の山田年度に引き続き（PART II）、今年の平出年度でも引き継がれ（PART III）、ここに理想のロータリーへ向けて「改革提言」する運びとなった。

1. 過去の「改革提言」の要約

PART Iでは、ロータリーの基本に立脚し、理想のロータリーを追求した大局的見地から、次の5項目の提言をした。

1. ロータリー理念を共有化させる方策
2. 例会を充実させる工夫
3. 委員会活動を活発にする方策
4. 地域社会との関わりを深める方策
5. 組織運営を活性化する方策

PART IIでは、直面する課題解決の具体策として次の3項目を提言した。

1. 委員会活動・組織運営の活性化及び理事会への提言
 - (1)現況報告書の充実
 - (2)理事会機能の強化（審議事項の導入）
 - (3)ロータリー理念の共有化
2. 財務上の問題点と改善策
3. 社会奉仕と広報のあり方

2. 活動の経緯

当委員会はロータリー歴別に選出されたメンバー16名とオブザーバー4名の計20名で05年10月より06年5月までの8ヶ月間で7回の会合と3回の座談会（会員のうちベテラン、中堅、若手夫々6，7名にお集まり頂き意見交換した）で議論を深めた。

今回のPART IIIでは、下記2点につき検討した。

1. RIのCLP（クラブ・リーダーシップ・プラン）に基づく推奨RCクラブ細則を踏まえ、前橋RCの改定クラブ細則の内容を提案する。
2. ロータリーのあるべき姿を議論すると共に、早急に取り組むべき課題と解決策を提言する。

当委員会では上記 1. については C L P 推奨細則を参考にしながら、当クラブの現状に即し、合理性の追求と重点的な活動を考慮し、主に「委員会構成の再編」と「理事の役割と選出方法」について議論を深めた。

上記 2. については会員がロータリーに真に望んでいることと、ロータリーの理想についてあるべき姿を実現するための方策について多くの時間を割いた。

3. 現状認識

前橋 R C では会員の意識を把握すべく一昨年から「会員満足度アンケート」を定期的に実施している。今年度も 2 月に実施したが、過去 3 回の会員満足度スコアは大幅に向上している。

分析の結果、会員がロータリーに期待していることは要約すると次の 3 点であると考えられる。

1. 会員の大多数は、何よりも会員同士の親睦と友情、例会等の雰囲気等「人間関係を良くする」環境づくりを推進してほしい、と願っている。
2. 会員の多くは、「地域密着型の奉仕活動」を質量共に充実させ、そのことが地域社会に受け入れられ、ひいてはロータリーの社会的地位向上につながることを願っている。
3. 会員は、ロータリーの理念・歴史を学び、実践し、人間的成長を育む環境づくりを願っている。

クラブ改革提言 〈Part III〉

クラブ改革の目標

「会員が充実したロータリーライフを享受し、かつ社会的評価（存在価値）の高いクラブに再生する。」

具体的提言 （→26 ページ）

1. ロータリー理念共有化のための「サービス哲学」研究会の設置
2. 理想のロータリアン育成のための研修プログラム（新会員～3 年）の作成
3. 奉仕活動の活性化：地域のニーズに適った当クラブ独自の奉仕、時事に即応した地域密着型奉仕、W C S（世界社会奉仕活動）開発など
4. 組織活性化のための、理事の役割の明確化と理事会機能の強化
5. 合理的・重点的活動のための委員会構成の再編
6. あるべきクラブ運営のためのクラブ細則の改定

2. 会員満足度アンケート

(1) 第3回会員満足度アンケート結果

2006 年 2 月 7 日実施 81 人回答

回答者数 2005 年 2 月実施 74 人
2004 年 2 月実施 84 人

＊ 集計結果は下記の通りにまとめてあります

はい	75	(92.5%	93.2%	89.2%)
	↑	↑	↑	↑
	今回実数	今回割合	前回割合	前々回割合

1. あなたは、前橋ロータリークラブに受け入れられている(歓迎されている)と感じますか。

はい 76 (93.8% 93.2% 89.2%)

いいえ 5 (6.1% 2.7% 8.3%)

1-2 「いいえ」の場合、どうしてですか。(該当する項目すべてに印を付けてください)

- 0 クラブが排他的である 0 他の会員は自分とは異質であると感じる
- 0 自分が他の会員と交流する努力をしていない
- 0 他の会員が私と交流する努力をしていない
- 0 その他の理由(具体的に)

2. あなたは、前橋ロータリークラブの組織としての現状をどう思いますか。(該当する項目すべてに印を付けてください)

現状に満足している	48	(59.2%	36.4%	42.8%)
現状に不満な点がある	5	(6.1%	13.5%	22.6%)
活発に活動している	32	(39.5%	35.1%	13.0%)
活動はあまり活発ではない	6	(7.4%	16.2%	20.2%)
自由闊達でオープンな風土がある	21	(25.9%	20.2%	13.0%)
何事も当り障りのない意見が通る	14	(17.2%	8.1%	21.4%)
明るく打ち解けた雰囲気である	49	(60.4%	51.3%	34.5%)
堅苦しくよそよそしい雰囲気である	3	(3.7%	6.7%	16.6%)
前例主義である	20	(24.6%	27.0%	44.0%)
変化に柔軟に対応し、新しい試みに積極的である				

25 (30.8% 29.7% 7.1%)

その他 1 イベントが多すぎる感がある

3. 前橋ロータリークラブが、RI や地区の提唱する、下記の活動に参加している度合いについてどう思いますか。

活動の種類	クラブの参加の度合い				
新会員勧誘	過 度	1	(1.2%	0.0%	0.0%)
	適 当	63	(77.7%	70.2%	78.5%)
	不十分	9	(11.1%	13.5%	9.5%)
	わからない	8	(9.8%	13.5%	11.9%)
会員のための初エンターションと教育	過 度	0	(0.0%	0.0%	0.0%)
	適 当	52	(64.1%	54.0%	54.7%)
	不十分	24	(29.6%	40.5%	30.9%)
	わからない	5	(6.1%	2.7%	14.2%)
地域への奉仕プロジェクト	過 度	1	(1.2%	0.0%	0.0%)
	適 当	58	(71.6%	70.2%	55.9%)
	不十分	18	(22.2%	21.6%	35.7%)
	わからない	4	(4.9%	4.0%	8.3%)
国際的奉仕プロジェクト	過 度	0	(0.0%	1.3%	7.1%)
	適 当	56	(69.1%	60.8%	60.7%)
	不十分	15	(18.5%	18.9%	13.0%)
	わからない	9	(11.1%	14.8%	19.0%)
クラブの広報活動	過 度	0	(0.0%	0.0%	1.1%)
	適 当	48	(59.2%	47.2%	52.3%)
	不十分	30	(37.0%	41.8%	32.1%)
	わからない	3	(3.7%	8.1%	14.2%)
募金活動	過 度	13	(16.0%	10.8%	25.0%)
	適 当	61	(75.3%	81.0%	64.2%)
	不十分	4	(4.9%	5.4%	2.3%)
	わからない	3	(3.7%	0.0%	8.3%)
ロータリー財団活動	過 度	11	(13.5%	14.8%	21.4%)
	適 当	65	(80.2%	63.5%	59.5%)
	不十分	2	(2.4%	2.7%	2.3%)
	わからない	3	(3.7%	16.2%	16.6%)
米山奨学活動	過 度	12	(14.8%	17.5%	22.6%)
	適 当	63	(77.7%	74.3%	66.6%)

地区主催の会合・プロジェクト	不十分	3	(3.7%	4.0%	0.0%)
	わからない	3	(3.7%	1.3%	10.7%)
	過 度	2	(2.4%	2.7%	2.3%)
	適 当	65	(80.2%	77.0%	69.0%)
他クラブとの交流・親睦活動	不十分	5	(6.1%	5.4%	9.5%)
	わからない	9	(11.1%	10.8%	7.1%)
	過 度	0	(0.0%	0.0%	0.0%)
	適 当	58	(71.6%	64.8%	63.0%)
	不十分	17	(20.9%	18.9%	23.8%)
	わからない	6	(7.4%	9.4%	13.0%)

4. 前橋ロータリークラブの活動に対するあなた自身の参加状況を記してください。

活動の種類	参加状況				
例会	積極的に参加	62	(76.5%	82.4%	64.2%)
	義務的に参加	19	(23.4%	16.2%	33.3%)
	不参加	0	(0.0%	1.3%	2.3%)
委員会活動	積極的に参加	40	(49.3%	56.7%	52.3%)
	義務的に参加	36	(44.4%	29.7%	35.7%)
	不参加	5	(6.1%	12.1%	11.9%)
会員増強	積極的に参加	12	(14.8%	12.1%	15.4%)
	義務的に参加	31	(38.2%	36.4%	42.8%)
	不参加	38	(46.9%	44.5%	41.6%)
会員のための初エンターションと教育	積極的に参加	21	(25.9%	24.3%	14.2%)
	義務的に参加	33	(40.7%	39.1%	41.6%)
	不参加	27	(33.3%	33.7%	44.0%)
地域への奉仕プロジェクト	積極的に参加	38	(46.9%	40.5%	34.5%)
	義務的に参加	35	(43.2%	43.2%	51.1%)
	不参加	8	(9.8%	16.2%	14.2%)
国際的奉仕プロジェクト	積極的に参加	18	(22.2%	14.8%	11.9%)
	義務的に参加	35	(43.2%	45.9%	47.6%)
	不参加	28	(34.5%	35.1%	40.4%)
クラブの広報活動	積極的に参加	21	(25.9%	16.2%	13.0%)
	義務的に参加	34	(41.9%	45.9%	53.5%)
	不参加	26	(32.0%	35.1%	33.3%)
募金活動	積極的に参加	23	(28.3%	32.4%	23.8%)
	義務的に参加	52	(64.1%	64.8%	71.4%)

ロータリー財団活動	不参加	6	(7.4%	1.3%	4.7%)
	積極的に参加	22	(27.1%	20.2%	19.0%)
	義務的に参加	50	(61.7%	60.8%	69.0%)
米山奨学活動	不参加	9	(11.1%	14.8%	11.9%)
	積極的に参加	22	(27.1%	27.0%	23.8%)
	義務的に参加	51	(62.9%	59.4%	66.6%)
親睦活動	不参加	8	(9.8%	10.8%	9.5%)
	積極的に参加	57	(70.3%	60.8%	57.1%)
	義務的に参加	22	(27.1%	32.4%	35.7%)
	不参加	2	(2.4%	5.4%	7.1%)

5. あなたは、クラブの活動およびプロジェクトへの参加に対し満足していますか。

非常に満足	1	(1.2%	2.7%	2.3%)
満足	74	(91.3%	75.6%	63.0%)
不満足	6	(7.4%	16.2%	33.3%)

5-2 「不満足」の場合、どうしてですか。（該当する項目すべてに印を）

- | | |
|-------------|----------------------|
| 1 自分の知識不足 | 0 その活動についての情報が不足している |
| 1 性格的に合わない | 1 リーダーや他の会員から支援がない |
| 2 出費が多い | 3 個人的な時間の不都合 |
| 1 その他（具体的に） | 歌がなじまない |

6. 下記の会員活動に関する費用をどう思いますか。

費用の種類	費用に対する見解				
クラブ会費	過度	8	(9.8%	21.6%	22.6%)
	妥当	73	(90.1%	78.3%	76.1%)
	不十分	0	(0.0%	0.0%	1.1%)
夜間例会・情報集会等の臨時の会費	過度	7	(8.6%	10.8%	13.0%)
	妥当	72	(88.8%	85.1%	85.7%)
	不十分	2	(2.4%	0.0%	1.1%)
奉仕プロジェクトへの寄付	過度	14	(17.2%	8.1%	17.8%)
	妥当	66	(81.4%	83.7%	79.7%)
	不十分	1	(1.2%	2.7%	2.3%)
ロータリー財団への寄付	過度	19	(23.4%	25.6%	38.0%)
	妥当	61	(75.3%	71.6%	60.7%)
	不十分	1	(1.2%	0.0%	1.1%)
米山奨学会への寄付	過度	15	(18.5%	21.6%	29.7%)

義援金・募金等	妥当	65	(80.2%	72.9%	69.0%)
	不十分	1	(1.2%	1.3%	1.1%)
	過度	4	(4.9%	6.7%	19.0%)
親睦活動	妥当	70	(86.4%	85.1%	78.5%)
	不十分	7	(8.6%	2.7%	2.3%)
	過度	3	(3.7%	1.3%	2.3%)
その他（具体的に）	妥当	74	(91.3%	87.8%	94.0%)
	不十分	4	(4.9%	5.4%	3.5%)
ローターアクト					

7. あなたは、毎週の例会を楽しまれていますか。

はい	75	(92.5%	87.8%	82.1%)
いいえ	6	(7.4%	9.4%	15.4%)

7-2 「いいえ」の場合、どうしてですか。

理由（具体的に） 週1回は多すぎる
夜間の開催が望まれる

8. 前橋ロータリークラブの会合をより良いものにするためのアイデアをお聞かせください。（該当する項目すべてに印を付けてください）

より良い講演者	65	(80.2%	67.5%	66.6%)
親睦活動をより強調する	30	(37.0%	35.1%	34.5%)
プログラムのテーマを充実する	20	(24.6%	28.3%	34.5%)
職業に関する情報を増やす	31	(38.2%	35.1%	33.3%)
奉仕の機会を増やす	14	(17.2%	25.6%	13.0%)
時間の管理をより良くする	8	(9.8%	6.7%	2.3%)
より多くの会員が活躍する機会を増やす	26	(32.0%	48.6%	42.8%)
地域社会と交流する機会を増やす	36	(44.4%	41.8%	46.4%)
家族が参加する機会を増やす	4	(4.9%	8.1%	4.7%)

その他（具体的に）

旬のトピックをスピーチで取り上げる試みは高く評価
他クラブとの交流を計画する（国内外を問わず）
ニコニコの寄付は名前を口頭でなく大きく翌週張り出したり、出席報告を省
ば時間をもっと有効に使えるのではないかな

9. あなたの配偶者／パートナー／家族は、あなたがロータリーに参加していることに
関してどのように思っていますか。（該当する項目すべてに印を付けてください）

誇りに思っている	31	(38.2%	36.4%	32.1%)
時間をかけすぎと思っている	9	(11.1%	8.1%	7.1%)
もっと知りたいと思っている	12	(14.8%	10.8%	10.7%)
費用がかかり過ぎと思っている	9	(11.1%	5.4%	9.5%)
他のロータリー配偶者／パートナー／家族との交流を求めている	6	(7.4%	13.5%	4.7%)
ロータリーのことをよく知らない／関心がない	32	(39.5%	44.5%	53.5%)
その他（具体的に）	積極的に出席を支援している。 ロータリーのことを教えない 興味をもっていない			

○最後に、あなたのロータリー歴を教えてください。

3 年以内	24	(29.6%	31.0%	25.0%)
4～10 年	20	(24.6%	24.3%	28.5%)
11～20 年	24	(29.6%	28.3%	25.0%)
21 年以上	13	(16.0%	14.8%	21.4%)

(2) 会員満足度アンケート結果分析 3年比較

前橋 RC では、過去3回『会員満足度アンケート』（RI 所定のものを、設問項目を一部改変した 2840 地区版を使用）を実施した。

第1回：2004年2月3日実施、有効回答84名。（2月末会員数102名）

第2回：2005年2月1日実施、有効回答74名。（2月末会員数103名）

第3回：2006年2月7日実施、有効回答81名。（2月末会員数104名）

第1回から第3回（今回）にいたる2年間（3年度）で、会員の意識がどのように変化しているか、集計結果を基に分析してみた。（ポイントの変化を、第1回→第2回→第3回 の各回答者数の百分率%で示している。単独のポイントは今回のもの。）

1. クラブ組織の現状に対する評価が2回目、3回目と一段と高まっている。

- 「現状に不満な点がある」（22.6%→13.5%→6.1%）、「活動はあまり活発ではない」（20.2%→16.2%→7.4%）、「堅苦しくよそよそしい雰囲気である」（16.6%→6.7%→3.7%）、「前例主義である」（44.0%→27.0%→24.6%）などのネガティブな意見が大幅に減少し、逆に、「活発に活動している」（13.0%→35.1%→39.5%）、「自由闊達でオープンな風土がある」（13.0%→20.2%→25.9%）、「明るく打ち解けた雰囲気である」（34.5%→51.3%→60.4%）、「変化に柔軟に対応し、新しい試みに積極的である」（7.1%→29.7%→30.8%）などの項目が大幅にポイント・アップした。
- ただ「何事も当り障りのない意見が通る」（21.4%→8.1%→17.2%）は、2回目で大幅に減少したが、3回目ではやや後戻りした。
- 「現状に満足している」（42.8%→36.2%→59.2%）人は、2回目でやや減り、3回目では大幅に増えている。
- 多くの会員が抱くクラブのイメージは1回目では「クラブの現状には満足しているが、活動はあまり活発とは言えない。明るく打ち解けた雰囲気はあるが、何事も当り障りのない意見が通り、前例主義である」というものであったが、3回目（今回）では「クラブは活発に活動しており、自由闊達でオープンな風土がある。明るく打ち解けた雰囲気で、変化に柔軟に対応し、新しい試みに積極的である。クラブの現状に満足している」となった。

2. RI や地区の提唱する諸活動への関心・理解が深まっている。（関わる意識が高まった）

- クラブの、RI や地区の提唱する諸活動への参加の度合いを尋ねる質問に対して、「わからない」（平均13.6%→8.1%→6.6%）は減る傾向にある。ロータリー財団活動（21.4%→14.8%→13.5%）、米山奨学活動（22.6%→17.5%

→14.8%)を「過度」(やりすぎ)と考える会員が減少した。

- また、「不十分」と感じている会員が多い項目は、1「クラブの広報活動」(37.0%)、2「会員のためのオリエンテーションと教育」(29.6%)、3「地域への奉仕プロジェクト」(22.2%)、4「他クラブとの交流・親睦活動」(20.9%)など。ただ「地域への奉仕プロジェクト」は1回目 비해「不十分」(35.7%→21.6%→22.2%)とする会員は減っている。

3. クラブの諸活動に積極的(主体的)に参加するようになった。

- クラブの諸活動(11項目)に「積極的に参加」(平均 30.0%→35.5%→41.5%)する会員が増え続けている。しかし、「義務的に参加」(平均 50.0%→43.4%→49.1%)する会員はまだ半数近い。「不参加」(平均 20.0%→21.1%→9.4%)は今回半減した。
- 「不参加」意識が高い項目は、1「会員増強」(46.9%)、2「国際的奉仕プロジェクト」(34.5%)、3「会員のためのオリエンテーションと教育」(33.3%)、4「クラブの広報活動」(32.0%)など。
- 例会は「義務的参加」(33.3%→16.2%→23.4%)が前回半減したが、今回はやや戻っている。

4. クラブの活動およびプロジェクトへの参加の(会員自身の)満足度が高まった。

- 「不満足」(33.3%→16.2%→7.4%)は激減し、「満足」(「非常に満足」含む)は9割を超えた(65.3%→78.3%→92.5%)。

5. 会費やロータリー財団・米山奨学会への寄付金の負担感が減った。

- 「クラブ会費」(22.6%→21.6%→9.8%)、「臨時の会費」(13.0%→10.8%→8.6%)や「ロータリー財団への寄付」(38.0%→25.6%→23.4%)、「米山奨学会への寄付」(29.8%→21.6%→18.5%)を「過度」と感じる会員は減少傾向にある。
- 「奉仕プロジェクトへの寄付」(17.8%→8.1%→17.2%)を「過度」と感じる会員が、前回は半減したが、今回後戻りしている。

6. 会員は毎週の例会を楽しんでいる。

- 「いいえ」(15.4%→9.4%→7.4%)は減少を続け、9割以上の会員が例会を楽しんでいる。

7. 会員はクラブの会合を改善することに意欲的である。

- クラブの会合をより良いものにするためのアイデアを問う設問には、毎回活発な意見が寄せられている。
賛同する会員が多い項目は、1「より良い講演者」(80.2%)、2「地域社会と交流する機会を増やす」(44.4%)、3「職業に関する情報を増やす」(38.2%)、4「親睦活動をより強調する」(37.0%)など。

8. 会員家族のロータリーに対する関心は高まりつつある。

- 「ロータリーのことをよく知らない・関心がない」(53.5%→44.5%→39.5%)という家族は減少傾向で、「誇りに思っている」(32.1%→36.4%→38.2%)、「もっと知りたいと思っている」(10.7%→10.8%→14.8%) 家族は増加傾向にある。
- 「時間をかけすぎる」(11.1%)、「費用がかかりすぎる」(11.1%) と思っ
ている家族も少数だがいる。

《なぜ会員満足が向上したか》

総じて、第1回目に比べて、2回目、3回目と会員満足度のポイントが大幅に向上した項目が多い。

2年前の第1回目は、第1期21世紀委員会がスタートした直後にクラブの現状把握のため実施した。アンケートの後すぐに結果を会員にフィードバックし、問題意識を共有化した。そしてアンケート結果分析を基に課題を抽出し、クラブ各層に幅広くヒヤリングを行って改革提言をまとめ、会員に対する報告会も実施した。その過程で実行可能な改善(例会の充実など)は、理事会で取り上げていただきすぐに実行に移された。(江原 毅 会長年度：クラブ創立50周年を機に「魅力あるクラブづくり」を年度目標に掲げ、21世紀委員会を立ち上げた)

次の年度(山田美光 会長年度)では、21世紀委員会第1期提言を受けた事業計画の実施(新奉仕プロジェクトなど)や親睦交流活動の充実、そして、引き続き新メンバーも加えた21世紀委員会PARTIIによるクラブ改革の具体策検討が進められた。第2回目のアンケートはそうした年度をまたがるクラブ改革が進行中に実施され、「会員満足向上」の傾向がはっきり結果に表れた。

今年度(平出昌男 会長年度)は、曾我隆一 地区ガバナーを輩出し、地区大会・合同IM等の地区行事にクラブを挙げて支援するとともに、自己研鑽・相互学習の場としての例会の充実、会員相互のコミュニケーションの場づくり、地域社会への奉仕プロジェクトの充実(合唱を聴く会、絵画コンクール)、公共イメージの向上等、魅力あるクラブづくりと組織強化を継続して実施している。21世紀委員会も3期目に入り、CLPの検討や、クラブ・会員のあるべき姿を示すビジョンづくりを推進しているところである。

こうした各年度会長のリーダーシップのもと、継続した一連の具体的で活発なクラブ改革活動の成果が、2回目、3回目のアンケート結果に表れていると考える。

《活動の課題》

前橋RCの会員満足度は、この2年間で確実に向上している。2年前の前橋RCは、「歴史と伝統」を誇り、安定感はあるが活動は低調で、保守的な前例主義の体質があると多くの会員が感じるクラブであった。2回目、3回目(今回)のアンケート結果を見れば、21世紀委員会(PART I)が掲げた「会員が充実したロータリーライフを享受することができ、かつ社会的評価(存

在価値)の高いクラブに再生する」というクラブ改革の目標に向けて大きく前進している、といってもよいと考える。

ただ、満足度指標は、まだまだ改善すべき点の多い事を示している。たとえば、クラブの諸活動に「義務的に参加」している(意識の)会員がまだ約半数いる(平均 49.1%)。例会への義務的参加意識も根強い。

例会の工夫だけではなく、不参加意識の高い「会員増強」、「国際的奉仕プロジェクト」、「会員のためのオリエンテーションと教育」、「クラブの広報活動」などのテーマについては、会員が主体的・積極的に参加できる条件を整えたり、機会や場をもっと提供したりすることが望まれる。

また、ロータリー歴や年齢層別の分析は今回も行っていないが、クラブ運営においては、“老・壮・青”のいずれの層も、(特に一連のクラブ改革推進のプロセスで)「疎外感」を味わうことのないような配慮が必要だと考える。

今回の結果にも表れた個々の不満足度要因については、具体的な対応策を年間計画の中に盛り込んで解消するよう努める必要がある。また、例会の充実、会員相互のコミュニケーションの場づくり、地域社会への奉仕プロジェクトの充実等の主要満足要因は、引き続き強調事項となるであろう。

これからは、「会員満足」の質が問われる。「満足」の中味が《充実・成長・向上・自己研鑽・楽しさ・面白さ・善意・友情・感動・精神的相互扶助・奉仕の心…》といったことを示していれば素晴らしいが、逆に、《安住・妥協・社会や奉仕に対する無関心・閉鎖的な仲間意識・馴れ合い・惰性・自己本位・自己満足…》を示していることもあるかもしれない。

定期的に「会員満足度アンケート」を実施し改善点を見つけ対策を講じてゆく会員満足向上活動はこれからも継続的に進める必要があるが、それとともに、全会員が合意できるクラブ・会員の理想像(あるべき姿)を定めて、現実とのギャップを埋めてゆく活動(会員個人としてはロータリアンとしての資質の開花と奉仕の心の醸成、クラブとしては活性化と「効果的なクラブ」となるための組織能力の向上)をさらに推進することが今後の重要課題になると考える。

《まとめ～会員満足向上活動の効果》

1. クラブの現状の問題点・課題・危機感を共有することで会員の一体感が高まる。
2. ロータリー理念や(RIの)活動・プログラムに対する理解が深まれば、会員の(ロータリーへの)帰属意識・参加意欲が高まる。
3. 例会・委員会活動や奉仕プロジェクトに主体的に参加すれば(主体的に参加できる機会を多く用意すれば)会員満足度は高まる。
4. 一人一人の会員の満足度(充実感、参画意識、やりがい)を高めて行けば、クラブ全体の組織活力が高まり、効果的なクラブになる。

3. ビジョンアンケート

(1) ビジョンアンケート結果 2006年2月7日実施 58人回答

A. 「クラブの理想像」に関して、下記のそれぞれの項目が重要かどうか、クラブの現状をどう思うか、あなたのお考えをお聞かせください。

- ① 明るく活気に満ちた組織風土である。
- | | | | | | | | | |
|-------|----|-------|----|----|---|-------|---|-------|
| [重要性] | 37 | 極めて重要 | 19 | 重要 | 2 | 重要でない | | |
| [現 状] | 1 | 極めて満足 | 49 | 満足 | 8 | 不満 | 0 | 極めて不満 |
- ② 会員のニーズに適った会員本位の運営を行っている。
- | | | | | | | | | |
|-------|----|-------|----|----|----|-------|---|-------|
| [重要性] | 27 | 極めて重要 | 29 | 重要 | 2 | 重要でない | | |
| [現 状] | 1 | 極めて満足 | 44 | 満足 | 13 | 不満 | 0 | 極めて不満 |
- ③ 会員は、充実したロータリーライフを享受し、満足度が高い。
- | | | | | | | | | |
|-------|----|-------|----|----|----|-------|---|-------|
| [重要性] | 25 | 極めて重要 | 31 | 重要 | 2 | 重要でない | | |
| [現 状] | 2 | 極めて満足 | 46 | 満足 | 10 | 不満 | 0 | 極めて不満 |
- ④ (地域) 社会に存在価値を認められている。(地域の北°ニオリーダー)
- | | | | | | | | | |
|-------|----|-------|----|----|----|-------|---|-------|
| [重要性] | 26 | 極めて重要 | 30 | 重要 | 2 | 重要でない | | |
| [現 状] | 4 | 極めて満足 | 29 | 満足 | 25 | 不満 | 0 | 極めて不満 |
- ⑤ 例会や委員会活動が活発である。
- | | | | | | | | | |
|-------|----|-------|----|----|----|-------|---|-------|
| [重要性] | 26 | 極めて重要 | 31 | 重要 | 1 | 重要でない | | |
| [現 状] | 1 | 極めて満足 | 42 | 満足 | 15 | 不満 | 0 | 極めて不満 |
- ⑥ 理事会がリーダーシップを発揮している。
- | | | | | | | | | |
|-------|----|-------|----|----|----|-------|---|-------|
| [重要性] | 20 | 極めて重要 | 36 | 重要 | 2 | 重要でない | | |
| [現 状] | 2 | 極めて満足 | 42 | 満足 | 13 | 不満 | 1 | 極めて不満 |
- ⑦ 入会を希望する会員候補者が多い。
- | | | | | | | | | |
|-------|----|-------|----|----|----|-------|---|-------|
| [重要性] | 17 | 極めて重要 | 39 | 重要 | 2 | 重要でない | | |
| [現 状] | 0 | 極めて満足 | 30 | 満足 | 26 | 不満 | 2 | 極めて不満 |
- ⑧ 会員に多様な「奉仕の機会」を提供できる。
- | | | | | | | | | |
|-------|----|-------|----|----|----|-------|---|-------|
| [重要性] | 15 | 極めて重要 | 38 | 重要 | 5 | 重要でない | | |
| [現 状] | 2 | 極めて満足 | 32 | 満足 | 24 | 不満 | 0 | 極めて不満 |
- ⑨ 独自の奉仕プログラムを持っている。
- | | | | | | | | | |
|-------|----|-------|----|----|----|-------|---|-------|
| [重要性] | 15 | 極めて重要 | 38 | 重要 | 5 | 重要でない | | |
| [現 状] | 2 | 極めて満足 | 44 | 満足 | 12 | 不満 | 0 | 極めて不満 |
- ⑩ 専門職務者同士の「事業上の発想の交換」が活発に行われている。
- | | | | | | | | | |
|-------|----|-------|----|----|----|-------|---|-------|
| [重要性] | 13 | 極めて重要 | 35 | 重要 | 10 | 重要でない | | |
| [現 状] | 2 | 極めて満足 | 26 | 満足 | 28 | 不満 | 2 | 極めて不満 |

- ⑪ 会員の学習と成長の環境が整っている。
 [重要性] 16 極めて重要 38 重要 4 重要でない
 [現 状] 1 極めて満足 30 満足 25 不満 2 極めて不満
- ⑫ 親睦と友情を育む機会がある。
 [重要性] 33 極めて重要 25 重要 0 重要でない
 [現 状] 5 極めて満足 44 満足 9 不満 0 極めて不満
- ⑬ バランスのとれた職業構成が保たれている。
 [重要性] 14 極めて重要 42 重要 2 重要でない
 [現 状] 1 極めて満足 42 満足 15 不満 0 極めて不満
- ⑭ 会員基盤が安定しており、成長力がある。
 [重要性] 19 極めて重要 38 重要 1 重要でない
 [現 状] 4 極めて満足 42 満足 12 不満 0 極めて不満
- ⑮ 「歴史と伝統」に安住せず、また前例にとらわれず、内外の環境変化に対応し、新しい試みに挑戦している。
 [重要性] 28 極めて重要 29 重要 1 重要でない
 [現 状] 3 極めて満足 34 満足 21 不満 0 極めて不満
- ⑯ 指導者を養成したり、有益な情報・実例を発信したりできる、他の模範となるリーディング・クラブである。
 [重要性] 19 極めて重要 38 重要 1 重要でない
 [現 状] 3 極めて満足 41 満足 14 不満 0 極めて不満

A-2. 上記 16 項目の「クラブの理想像」のうち、あなたが考える優先項目上位 5 項目の番号を記入してください。

- 1 位 ①明るく活気に満ちた組織風土である。(140 ポイント、以下 p)
 2 位 ⑫親睦と友情を育む機会がある。(116 p)
 3 位 ③会員は、充実したロータリーライフを享受し、満足度が高い。(90 p)
 4 位 ②会員のニーズに適った会員本位の運営を行っている。(87 p)
 5 位 ④(地域) 社会に存在価値を認められている。(68 p)
 ⑮「歴史と伝統」に安住せず、また前例にとらわれず、内外の環境変化に対応し、新しい試みに挑戦している。(68 p)
 7 位 ⑤ (47 p)・⑩ (47 p)、 9 位 ⑪ (36 p)、 10 位 ⑦ (24 p)、
 11 位 ⑯ (23 p)、 12 位 ⑨ (22 p)、 13 位 ⑬ (18 p)、
 14 位 ⑧ (17 p)、 15 位 ⑭ (16 p)、 16 位 ⑥ (15 p)

* ポイントは1位 5p 2位 4p 3位 3p 4位 2p 5位 1pとして計算。
 以下B-2の設問に関しても同じ。

B. 「会員の理想像」に関して、下記のそれぞれの項目が重要かどうか、あなた御自身の現状をどう思うか、あなたのお考えをお聞かせください。

① 善良な市民である。

[重要性] 40 極めて重要 18 重要 0 重要でない
[現 状] 7 極めて満足 49 満足 2 不満 0 極めて不満

② ロータリーの「奉仕理念」を深く理解し、信奉している。

[重要性] 20 極めて重要 38 重要 0 重要でない
[現 状] 5 極めて満足 37 満足 15 不満 1 極めて不満

③ 高い職業倫理を持ち、自らの事業の社会的価値の向上に努めている。

[重要性] 32 極めて重要 25 重要 1 重要でない
[現 状] 3 極めて満足 44 満足 11 不満 0 極めて不満

④ 学習意欲が旺盛で、人間的成長を続けている。

[重要性] 20 極めて重要 37 重要 1 重要でない
[現 状] 1 極めて満足 42 満足 15 不満 0 極めて不満

⑤ クラブ外の社会で、積極的に奉仕の実践を行っている。

[重要性] 18 極めて重要 36 重要 4 重要でない
[現 状] 4 極めて満足 30 満足 23 不満 1 極めて不満

⑥ 会員同士の親睦と友情を大切にする。

[重要性] 32 極めて重要 26 重要 0 重要でない
[現 状] 3 極めて満足 45 満足 10 不満 0 極めて不満

⑦ クラブ奉仕に積極的に参加している。

[重要性] 17 極めて重要 38 重要 3 重要でない
[現 状] 2 極めて満足 42 満足 14 不満 0 極めて不満

⑧ RI 提唱の奉仕プロジェクトへ、積極的に参加している。

[重要性] 10 極めて重要 41 重要 7 重要でない
[現 状] 1 極めて満足 35 満足 21 不満 1 極めて不満

⑨ クラブを超えた指導力を身につけるよう努力している。

[重要性] 13 極めて重要 39 重要 6 重要でない
[現 状] 2 極めて満足 26 満足 30 不満 0 極めて不満

B-2. 上記9項目の「会員の理想像」のうち、あなたが考える優先項目上位 5 項目の番号を記入してください。

1 位 ①善良な市民である。(192 p)

2 位 ③高い職業倫理を持ち、自らの事業の社会的価値の向上に努めている。
(147 p)

3 位 ②ロータリーの「奉仕理念」を深く理解し、信奉している。(121 p)

4位 ⑥会員同士の親睦と友情を大切にする。(93p)

5位 ④学習意欲が旺盛で、人間的成長を続けている。(82p)

6位 ⑤ (80p)、 7位 ⑦ (38p)、 8位 ⑨ (34p)、 9位 ⑧ (6p)

C. 上記項目以外に、クラブ・会員の理想像の要素として重要とお考えのことがあればお聞かせください。

クラブの理想

- 充実したローラーライフを享受し、満足度が高い
- 親睦と友情を育む機会
- 社会に存在価値を認められている
- 奉仕の具現化、地域への奉仕 → 街の活性化
- 明るく活気に満ちた組織風土、地域に存在価値を認められている、バランスの取れた職業構成が保たれている
- 地域社会にあって存在価値を認知されていること、会員が充実したローラーライフを実感できるか、環境変化に対応した柔軟性
- 働くことの大切さ、職業意識をプロとして次世代に引き継ぐこと
- ロータリーの奉仕理念に対する理解を深めることを怠らない、ロータリーの奉仕理念を現代社会に適用させる研究と実践を推進する。

会員の理想

- ロータリーの「奉仕の理想」を深く理解し、信奉している
- 高い職業倫理を持ち、自らの事業の社会的価値の向上に努める
- 会員同士の親睦と友情を大切にする
- コンプライアンスの徹底、リスク管理の徹底
- 世の為、人の為、企業の為、社会の為、家族友人の為になれる自分になれたらと思う
- 善良な市民である、ロータリーの奉仕の理想を深く理解し、信奉している、会員同士の親睦と友情を大切にする
- 品格
- 善良な市民、ロータリアンとしての自覚、職業を通じ奉仕の実践、クラブ奉仕活動に積極参加
- 自らの職業、仕事を人に説明し理解されるよう努めスピーチ能力を高めること

D. 前橋RCの現状で改善が必要だと思われることがあれば、具体的にお書きください。

- 「日々新たなり」を忘れず、革新すること

- 例会においては座席が固定されなくなったが、クリスマス家族会などにおいても一部の座席指定以外は固定しないほうが良いと考えています
- 委員会ごとの活発な活動があると良い
- 例会の運営のあり方で、じっくりと話を聞く時間がほしいと感じる
- 「出席率」が大本営発表になってしまっている点は改善の要
- 諸規制の見直し、委員会の活性化
- 全会員が一つに向かって取り組む事業があったほうがいいと思います
- クラブ活動の多様性、例えば先進クラブ視察、芸術文化スポーツ等の視察観戦など
- 国際ロータリープログラムも評価するが地域が一番
- 委員会活動の活発化、前例主義の撤廃、正副委員長の活発なローテーション
- 委員会活動の活性化、理事会の充実
- 基本的に現状に満足していますが、あえて言えば地元地域との交流をさらに進めると良いと思います
- 例会における卓話の時間を長くする
- 世の中で起きていることへの迅速な奉仕活動が不足していると感じます。例えば新潟やみなかみ町の豪雪地帯への寄付金集め、子供たちの安全な送迎のボランティア活動など
- 理事会機能の強化（担当責任制の徹底）、会費の見直し（高い）
- 例会に出席するだけで帰るのでなく、例会後にコーヒーコーナーの席を利用して（具体的なテーマをもとに？）話し合うことが出来れば新会員も交流の機会が持てる。
- 大所高所に立った見識ある意見を地域社会に示し、オピニオンリーダーとして貢献できるよう努める姿勢が必要。地域住民、特に時代に背負う若者、子供に対し、高い倫理観と夢と希望を抱かせ、活力ある前向きな人生を歩ませるための奉仕活動を充実させることが必要と思う。

E. あなたにとって、ロータリークラブの魅力は何ですか。

- 人生の道場、職業倫理向上
- 前橋市内の職業のリーダーと親睦と友情を育み充実したロータリーライフを享受することです。
- いろいろな職種の方々と出会うこと
- 会員同志の交流や他クラブへのメイキャップ等で情報交換の輪が広がること

- 多くの会員と友情を育める点、自らの成長に刺激が与えられる点
- 仲間
- 異業種交流、地域奉仕、会員相互の親睦
- いろいろな考えを持つ地域のリーダーの方々ご指導いただけることに感謝しています
- いろいろな職業の会員の方との出会いによって、知識を増やすことができること。また社会に対する見方も何が社会のために役立てる事が出来る様にと考えられる様になりました。
- 自己研鑽、人脈、Network、反面教師
- 会員が対等な立場として尊重されている
- 親睦と友情を育む機会が多いこと
- ロータリー活動を通じ人脈を得られること
- 質の高いメンバーとの交流
- 人間が素直になれ、あらためて社会奉仕の重要さと喜びを感じさせてくれていること
- 会員同士の情報交換、学習の場。会員同士の親睦、友情
- 異業種交流会と友達作りと人生勉強
- すばらしい方と触れ合える（学べる）
- 人との出会いと自己の成長の場を通じ、社会貢献へ
- いろいろな経歴、職種の方がおられ、大変勉強になるとともに肩のこらない会話が出来て参加するのが非常に楽しい
- メンバーと力をあわせて社会奉仕が出来ること、メンバー間での親睦が図れること
- 他の職業の人と知り合える
- 会員同士の親睦
- 仲間としての連帯感
- 幅広い方々との親睦、奉仕
- ロータリークラブ活動を通じ社会奉仕活動に参画している、会員間の親睦と友情を深める、自身を向上させる勉強の場
- 通常ではお話できないような人生の大先輩や様々な職業の方と交流を深めることが出来ることです
- サービス理念（サービスの哲学）、考え方が誠実
- 人脈が多い、すばらしい人との出会い
- 同業者同士の会話には限度があるが、異業種の人達の発想、考え方に学ぶべきことが多い。
- 各職域のトップクラスの方々と親しく交友し広く学べること。高い倫

理観をもち、奉仕活動に努力する集団であること

F. その他、どんなことでも

- 「ロータリークラブが〇〇をしてくれる、くれない」というよりも、自分自身や会社が地域社会に奉仕できることが何なのかを基本にした活動にしたい
 - 卓話は非常に楽しみです。「目から鱗」の事も多くあります
 - 対外的に費用の発生する場合（懇親会、会議、会合等）はケチらないで下さい
 - 卓話で少々時間延長を黙認しては如何（特に外部卓話等の時）
 - 例会、活動とも「明るく」「楽しく」「判りやすく」しましょう
 - 例会時に歌唱指導の導入は如何。ハイキング、合唱を聴く会、写生大会等は是非継続していただきたい。すばらしいものと思います
 - アメリカのロータリアンはスピーチ能力の向上を掲げていると思います。人を楽しませるユーモアと感動させあきさせない話法を皆で習得し 5 分間スピーチの達人を目指しましょう。例会でもっと地元の方々の職業について聞きたいと思います。都丸さんの養鶏場のお話すばらしいと感じました。
 - もう少し懇親の場（夜間例会、ほろ酔いミーティングのような）をもっても良いのではないか
 - 各会員はそれぞれ豊富な人生経験を持ち高い見識を持たれた方々です。この経験に基づき時代に担う少年少女に夢と希望を持たせ、学ぶことの大切さ、努力することの重要性を話せるはずです。各会員が分担し社会教育の一端を担ってみてはどうでしょうか。
- 最後に、あなたのロータリー歴を教えてください。
- 3年以内：17人、4～10年：15人、11～20年：17人、21年以上：9人

(2) ビジョンアンケート結果分析

A. 「クラブの理想像」の重要度

「クラブの理想像」①～⑯の項目に対して、会員が重要であると考える項目の順位は以下の通りであった。

- 1位. ①明るく活気に満ちた組織風土である。(140 ポイント、以下p)
- 2位. ⑫親睦と友情を育む機会がある。(116p)
- 3位. ③充実したロータリーライフを享受し、満足度が高い。(90p)
- 4位. ②会員のニーズに適った会員本位の運営を行っている。(87p)
- 5位. ④(地域)社会に存在価値を認められている。(68p)
⑮歴史と伝統に安住せず、また前例にとらわれず、内外の環境変化に対応し、新しい試みに挑戦している。(68p)
- 7位. ⑤例会や委員会活動が活発である。(47p)
⑩専門職務者同士の事業上の発想の交換が活発に行われている。(47p)
- 9位. ⑪会員の学習と成長の環境が整っている。(36p)
- 10位. ⑦入会を希望する会員候補者が多い。(27p)
- 11位. ⑯指導者を養成したり、有益な情報、実例を発信したりできる、他の模範となるリーディングクラブである。(36p)
- 12位. ⑨独自の奉仕プロジェクトを持っている。(22p)
- 13位. ⑬バランスのとれた職業構成が保たれている。(18p)
- 14位. ⑧会員に多様な「奉仕の機会」を提供できる。(17p)
- 15位. ⑭会員基盤が安定しており、成長力がある。(16p)
- 16位. ⑥理事会がリーダーシップを発揮している。(15p)

＊ ポイントは、1位 5p、2位 4p、3位 3p、4位 2p、5位 1pとして集計。

以上の結果から導きだされる推論

1. 会員は何よりも親睦、友情、雰囲気など「人間関係を良くしたい」と思っている。(①～④)
2. 一方、奉仕活動には消極的なきらいがある。(⑫、⑭)
3. 社会的評価についてはある程度期待している。(⑤)
4. ロータリー活動の活性化にも期待を寄せている。(⑥、⑦)
5. ロータリーの研究や人間的成長には関心が高いとは言えない。(⑦、⑨)
6. 理事会の機能、役割を期待していない、若しくはよく理解していない会員が多い。(⑯)

A-2. 「クラブの理想像」とその現状についての考察

1. 重要性を認めかつ現状満足している項目

- ① 明るく活気に満ちた組織風土である。
- ② 親睦と友情を育む機会がある。
- ③ 充実したロータリーライフを享受し、満足度が高い。
- ④ 会員のニーズに適った会員本位の運営を行っている。
- ⑦ 例会や委員会活動が活発である。

2. 重要性は認めるが現状では満足していない項目

- ⑤ (地域)社会に存在価値を認められている。
- ⑥ 歴史と伝統に安住せず、また前例にとらわれず、内外の環境変化に対応し、新しい試みに挑戦している。

以上の結果から導き出される推論

- 1. 会員の大多数が明るい組織風土、親睦、友情等良好な人間関係の構築が極めて重要と考えており、現状でも極めて満足は少ないが、ある程度満足している。
- 2. 会員は最近の例会の充実等「クラブ内活動」については多くの会員が重要と考えており、また、その活動に概ね満足している。
- 3. 「クラブ外奉仕活動」については会員の多くが「もっと充実させるべき」と考えており、その結果ロータリーの社会的地位が高まることを期待している。
- 4. ロータリーへの学習意欲や人間的成長を期待している会員は多いが「環境が整っていない」への不満がある。
- 5. 「入会を希望する会員候補者」が多くなることを望んでいるが、現状では難しいと考えている会員が多い
- 6. 「理事会がリーダーシップを発揮する」ことは極めて重要であるが、現状では「極めて満足」と思っている会員は少ない。

B. 「会員の理想像」とその現状についての考察

1. 重要性を認め、かつ現状に満足又はまあ満足している項目。

- ① 善良な市民である。
- ③ 高い職業倫理を持ち、自らの事業の社会的価値の向上に努めている。
- ④ 学習意欲が旺盛で、人間的成長を続けている。
- ⑥ 会員同士の親睦と友情を大切にする。

2. 重要性は認めるが、現状では不満が多い項目。

- ⑤ クラブ外の社会で、積極的に奉仕の実践を行っている。
- ⑧ R I 提唱の奉仕プロジェクトへ積極的に参加している。
- ⑨ クラブを超えた指導力を身につけるよう努力している。

以上の結果から導き出される推論

1. 会員の大多数は当クラブの会員が善良な市民であり、職業倫理も高い集団だと思っている。
2. また、学習意欲も旺盛であり、親睦と友情を最も大切にしている、と認めている。
3. 一方、クラブ外の社会活動では、積極的な奉仕活動を行うことの重要性は認めながら、実際には不満だと思っている会員が約4割いる。
4. R I 提唱の奉仕活動やクラブを超えた人材育成に不満に思っている会員が約4割いる。

各種アンケートから導き出される課題

1. 親睦・友情・雰囲気等、「人間関係を良くする」環境づくりを推進し「極めて満足する」現状10%を50%以上にするための方策。
2. 地域社会に受け入れられ、ひいてはロータリーの社会的地位向上につながるための「クラブ外奉仕活動」を質量とも充実させる方策。
3. ロータリーの理念・歴史を学び、実践し、人間的成長を育むシステムづくりのための方策。

4. 具体的提言

1. ロータリー理念共有化のための「サービス哲学」研究会の設置

「ロータリー理念の共有化」というテーマは、2004年6月にまとめられた21世紀特別委員会報告書（以下「PART I 報告書」と呼ぶ）の改革提言の第1に掲げられている（16ページ）。具体的には、

- ① 全会員対象のロータリーの勉強会を定例化する。
- ② 新会員へのオリエンテーションを強化する。
- ③ 会員の自発的な研究・勉強会を奨励する。

の3項目を提案した。これらの項目は、PART II 報告書（2005.4.26）でも、繰り返し表現を変えて提案されている。しかし、残念ながらその後の具体化作業はほとんど進んでいないのが現状である。

会員満足度アンケートの結果分析（本報告書2(2)：15ページ）で触れたように、「ロータリー理念に対する理解が深まれば、会員のロータリーへの帰属意識・参加意欲が高まる」ことは明らかである。

ロータリー理念の核心は、“The Ideal of Service”である。この言葉は従来「奉仕の理想」と翻訳されてきたが、原義を現代日本語で表現すれば、「サービス理念」とか「サービス哲学」と言ってよいと考える。

このロータリーの「サービス哲学」を、より深く理解し、その有効性を再検証して、現代日本社会への適用を考えてゆくことが、現代に生きる私たちロータリアンの責務ではなかろうか。

そこで、クラブ内に特別委員会もしくは勉強会の形で「サービス哲学研究会」を発足させ、その研究成果を全会員に共有化（さらには、外部に発信）してゆくことを提案する。

2. 理想のロータリアン育成のための研修プログラム(新会員～3年)の作成

上記 PART I 報告書で提案した「② 新会員へのオリエンテーションを強化する」という項目の詳細は以下の通りである（16ページ）

- (1) 会員のクラブやロータリーに対する姿勢・距離感は、入会3年以内に定まる。新会員に対して、ロータリアンとしての自立を促す育成プログラムが必要である。
- (2) 入会初年度は、十分に正しいロータリー情報を提供し、クラブ・メンバーとして打ち解けてゆけるよう見守る必要がある。
- (3) 例会以外の会合や委員会活動にも積極的に参加を促す。
- (4) 入会3年間は、毎年新しい委員会を経験してもらう（計画的ローテーシ

ョン)。

今回、ビジョン・アンケートで、理想的会員像について、会員の意識調査を実施したが、その結果分析（本報告書3(2)：23～25ページ）も踏まえて、新会員～入会3年までを対象とした研修プログラムの作成をお願いしたい。（理事会およびロータリー情報委員会を中心にプログラム作成のプロジェクトを編成することが望まれる。）

3. 奉仕活動の活性化

クラブが行う奉仕活動については、PART I 報告書では、「地域社会との関わりを深める」という視点で、また PART II 報告書では、「社会奉仕と広報のあり方」という視点で検討・提言した。そのプロセスで、「NHK 全国学校音楽コンクール前橋地区出場校の合唱を聴く会」という具体的な地域奉仕プロジェクトも企画・実施された。（2004－05 年度・05－06 年度の2回。次年度も実施予定）

この前橋 RC 独自の地域プロジェクトへの多くの会員の主体的参加は、会員満足の向上という結果となって表れている。（本報告書2(2)）

ロータリークラブの存在価値を高めるための「社会奉仕」の基本姿勢は、常に（地域）社会のニーズを探索し、新しい独自の奉仕（サービス）を開発することである。今後の奉仕（サービス）活動開発のポイントを整理すると、

- ① 単なる協賛や他団体への寄付ではない、前橋 RC 独自（オリジナル）の奉仕。
- ② 地域のニーズに適った奉仕。
- ③ 天災や事件などの時事に即応した支援・奉仕。
- ④ 国際社会の諸問題に対応した「世界社会奉仕」（WCS）の開発。…など。

地域社会のニーズを見いだすために地域の状況を調査・分析することが、社会奉仕委員会に対して要請されている（『手続要覧 2004』第6章 社会奉仕：78 ページ）のだが、このような奉仕（サービス）の調査・研究そして開発をきちんと行う機能がクラブ内に定まっていないのが現状である。

そこで、社会奉仕委員会中心に、他の奉仕プロジェクト委員会（職業奉仕・新世代奉仕）とも連携し、「地域奉仕（サービス）開発プロジェクト（または特別委員会）」を立ち上げ、奉仕（サービス）の調査・研究・開発を推進することを提案する。

4. 組織活性化のための、理事の役割の明確化と理事会機能の強化

このテーマについては、PART I 報告書では、組織運営活性化のため「幹部のリーダーシップ機能を高める」必要があることを指摘し、PART II 報告書では、

現況報告書を事業計画書として充実させ、審議機関としての理事会を強化すべきことを提言している。

クラブの組織運営を円滑化・活性化するポイントは、ワン・イヤー・ルール
の壁を乗り越えるための「継続性の確保」と、クラブの管理主体である「理事
会機能の強化」であると考え。PART I・PART II 報告書と重複する点もある
が、以下に組織運営活性化のための具体策を提案する。

- ① 次年度理事会・クラブ協議会の早期実施。PETS（3 月）・地区協議会（4 月）での RI・地区情報を早急に共有するとともに、次年度会長方針を理事会およびクラブ協議会で提示する。
- ② 年度末、早め（できれば5月中）に理事会・各委員長は年間活動を総括し（計画と実績を自己評価する）、次年度理事会・各委員長と引継ぎの機会を持つ。（①の次年度の準備と連動する）
- ③ 事業計画書としての「現況報告書」づくりに力を入れる。②の（前年度）総括を盛り込み、それを踏まえての事業計画書としたい。（PART II 報告書 7 ページ参照）
- ④ クラブの意思決定機関である理事会の審議機能を高めるため、月一回の定例理事会だけで対応できなければ、臨時理事会を招集したり、理事数人のワーキンググループでの作業・検討を別途進めたりなどする柔軟かつ臨機応変な理事会運営が望まれる。
- ⑤ 理事・役員の役割（分担）を明確にする。現在、会長・幹事に過度に集中しているクラブ運営業務を分散させ、会長・幹事の負担を軽減させる、という意味もあるが、特に、クラブ組織運営の効果を高めるためには、理事会と各委員会の連携が重要である。理事は全員担当委員会（または部門）をもち、担当の委員会活動の活性化に責任を持って取り組む必要がある。

5. 合理的・重点的活動のための委員会構成の再編

「委員会活動の活発化」というテーマは、上記の他の提案項目と同様、PART I 報告書以来の懸案である。委員会活動とその事業内容の見直しや委員会の統合・再編などが検討されたが、PART II 委員会活動の途中で、RI より CLP（クラブ・リーダーシップ・プラン）とそれに基づく推奨ロータリークラブ細則が提示された（2005 年 1 月）。PART II 報告書では、CLP に基づくクラブ細則改定試案を提示して、今年度の PART III 委員会でも引き続き検討を重ねてきた。

地区の委員会組織が CLP を意識した編成に移行しつつあることもあって、当クラブの次年度（吉田年度）委員会構成も、かなり CLP を反映した編成となっている。

ただ、ロータリーの本質である奉仕理念の研鑽や純粹親睦（精神的相互扶助）

を CLP の機能的分類の枠組みの中でどのように実現していくか、そして「四大奉仕」との整合性をどのようにとっていくかという議論は残っている。

とは言うものの、「四大奉仕部門」という枠組みも、もともとクラブ運営の効率化を目的として導入された、言わば“80年前の CLP”であったことを考えれば、金科玉条のように「四大奉仕」にこだわる必要もないと考える。

重要なのは、ロータリー理念を実践するために、そして私たちの前橋 RC というクラブの目的を実現するために最適の、思いのこもった組織体制を作り上げることである。そうした本質的な議論を踏まえた、21 世紀委員会のあるべき委員会構成の試案を次ページに示す。次々年度（遠山年度）の組織づくりの参考になればありがたい。

あるべき委員会再編のポイントは、以下の通りである。

1. 「四大奉仕部門」や「機能別分類」による委員会構成では埋もれがちな、ロータリー理念の追求や奉仕の実践に資する委員会の新設。
2. 常設委員会と特別委員会・実行委員会の位置付けおよび弾力的適用。
3. 委員会活動や組織運営の継続性の確保、特に3年委員会の適切な運用。

6. あるべきクラブ運営のためのクラブ細則の改定

クラブ細則の見直しとは、単に推奨細則の字句を修正して、クラブの実態に細則をあわせるということではない。前橋 RC に最も相応しいクラブ運営の形を多角的に検討し明文化して、それに基づく運営を実施することで、透明性・納得性を高めてゆくことがその眼目である。

細則見直しは、前橋 RC のあるべきクラブ運営を検討することでもあった。PARTII 報告書に試案を示したが、その後進めた議論によって、内容的にはさらに大きな改定が必要であるとの認識に達した。たとえば、上記1～5の提案を盛り込んだ内容としなければならない。

CLP 版の推奨クラブ細則に基づき吉田年度の組織にあわせた改定が、近々予定されている（2006 年7月1日改定予定）。そこで本報告書では、21 世紀委員会で検討した改定案の一部（「第9条 委員会」と「理事・役員の選考方法に関する内規案」）を提示するにとどめ、あるべきクラブ細則改定のポイントを次章で解説する。

クラブ細則は、毎年度末に定期的に見直し、必要があれば手続きに従って改定しなければならない。従来この作業が形骸化しており、RI 推奨クラブ細則の引き写しを毎年繰り返してきた。

今回の改定（2006.7.1）を機に、今後も定期見直し・改定作業を継続していただきたい。細則の見直し・改定は、会長エレクト・次年度幹事の責務である。

前橋ロータリークラブ 役員・委員会構成 21 世紀委員会 試案

理事・役員

役 職	担 当	役 職	担 当
会長		直前会長	
会長エレクト	会員組織強化	理事1	クラブ広報
副会長	クラブ管理運営	理事2	職業奉仕・奉仕理念
幹事・副幹事		理事3	社会奉仕プロジェクト
会計(正・副)		理事4	国際奉仕プロジェクト
SAA(正・副)		理事5	奨学事業 *
会計監査人		理事6	特別委員会 *

常設部門

常設部門			担当役員:会長エレクト		
会員組織強化部門			担当役員:会長エレクト		
会員増強・職業分類委員会 ロータリー情報委員会		会員選考委員会			
クラブ広報部門			担当理事:理事1		
広報委員会 クラブ週報委員会		ロータリーの友委員会 IT・記録保存委員会			
クラブ管理運営部門			担当役員:副会長		
出席委員会 ニコニコ BOX 委員会	親睦活動委員会 健康管理委員会	プログラム委員会			
職業奉仕・奉仕理念部門			担当理事:理事2		
職業奉仕委員会		＊奉仕理念委員会			
社会奉仕プロジェクト部門			担当理事:理事3		
地域社会奉仕委員会 ＊奉仕開発委員会		新世代奉仕委員会 (RA・IA担当)			
国際奉仕プロジェクト部門			担当理事:理事4		
国際奉仕委員会		ロータリー財団委員会			
奨学事業部門			担当理事:理事5		
米山奨学委員会		前橋 RC 国際奨学委員会			

特別委員会		担当理事:理事6
予算委員会		
合唱を聴く会実行委員会	(写生大会実行委員会)	

*印は、新設部門または委員会

5. クラブ細則改定のポイント

以下に、今後のクラブ細則改定の際に検討すべきポイント（前橋 RC として独自の内容・表現を盛り込みたい部分）を示す。準拠したのは、最新のクラブ・リーダーシップ・プラン(CLP)に基づく推奨ロータリークラブ細則である。（『手続要覧 2004』刊行後に公表されたもの。→本報告書資料編④ 参照）

1. 理事・役員の役割の明確化と理事会機能の強化（→ 第 2 条 理事会）

理事・役員の役割を明確に記述する。特に、理事は、いわゆる無任所理事をつくらず、全員がどこかの部門または委員会の担当理事として運営を統括することを明記することが望ましい。また、幹事・会計等の役員の理事会における議決権の有無も明示すべきである。

2. 理事・役員の選出方法として、指名委員会方式を明文化（→ 第 3 条 理事および役員の選出）

推奨クラブ細則では、指名の方法を「指名委員会または出席全会員のいずれか」で行うと表現されているが、前橋 RC では、従来「指名委員会」方式が定着しているので、そのことを明記する。そして、指名委員会の運営方法については別途内規で詳しく規定しておく。（以下に、21 世紀委員会の内規試案を示す）

理事および役員の選考方法に関する内規（案）

21 世紀委員会 PARTIII 2006.3

1. 選考方法：

本クラブの理事・役員の選考に当たっては、毎年指名委員会を設置して、これを行う。

2. 指名委員会の目的：

指名委員会の目的は、次次期会長（会長ノミニー）候補者および次期理事・役員候補者を選考し指名すること、また会長、会長エレクト（会長ノミニー）に欠員が生じた場合に候補者を再指名することである。

＊次期理事・役員とは、次期における会長・会長エレクト・副会長・幹事・会計・会場監督・直前会長の 7 名の役員と、6 名（現在 7 名）の理事をいう。

3. 指名委員の任期：

指名委員の任期は、年次総会の 1 か月前の例会より、次の指名委員が決まるまでの 1 年間とする。

4. 指名委員の指名とメンバー構成

指名委員は、次期会長（この時点では会長ノミニー）が指名する。メンバーは、現会長・直前会長および直直前会長の 3 名を含め、会員歴のバランスを考慮して選んだ 3 名と、次期会長（この時点では会長ノミニー）を加えた 7 名とする。委員長は、委員の互選とする。

5. 選考の流れ

- ① クラブ細則の定めるところ(第3条第1節)により、毎年11月第1例会において、会長は、指名委員会の開催を通告する。
 - ② 指名委員は、日を定めて指名委員会を開催し、次次期会長(会長ノミニー)候補者および次期理事・役員候補者を選考する。会員はそれまでに指名委員に対し候補者を推薦することができる。
 - ③ 指名委員会は、年次総会1週間前の例会において、候補者氏名を発表する。
 - ④ 12月第1例会の年次総会において、候補者は選挙に付される。
-

3. 奉仕理念と四大奉仕部門の位置づけの整理 (→ 第8条 四大奉仕部門)

CLP版推奨クラブ細則では、第8条が新たに付け加えられた。CLPが推奨する委員会構成が見慣れない機能別分類となり5つの常設委員会に簡略化されている(第9条)ので、ロータリーの組織編成で長らく使われている四大奉仕部門という枠組みとの関連や、クラブ運営における四大奉仕の位置づけを明記する必要があったからであろう。

しかし、この第8条は、CLP版細則の中では、取って付けたような印象はぬぐえない。「理念と実践の枠組み」としての四大奉仕の意義をロータリーの奉仕理念との関係で捉えなおす必要があると考える。この点は、さらに議論を深めなければならない。

4. CLPを参考に、委員会構成を再編 (→ 第9条 委員会)

CLP版推奨クラブ細則の最も特徴的な箇所が、この第9条に示された機能別分類による委員会構成である。すなわち、常設委員会として、会員増強委員会・クラブ広報委員会・クラブ管理運営委員会・奉仕プロジェクト委員会・ロータリー財団委員会の5つの委員会を提示している。この常設委員会の他に必要に応じて「特別委員会」の設置と「奉仕と親睦のニーズを満たすために必要な委員会を設置する」裁量権をクラブに認めている。

この第9条が、最もクラブによる違いが表れる条項である。CLPの機能別分類や「四大奉仕部門」の枠組みにこだわらず、前橋RCのあるべきクラブ運営の形を反映したものでありたい。そして、もちろん新年度の会長方針に基づく組織体制を正確に表現しなければならない。

以下に、今回の21世紀委員会で検討した「役員・委員会構成 試案」(本報告書30ページ)を条文化した、第9条の試作を示しておく。今後の細則改定の参考にしていいただきたい。

第9条 委員会

クラブ委員会は、機能別に分類された部門単位に運営され、年次および長期的な目標を推進する責任を持つ。会長エレクト、会長および直前会長は、指導の継続と計画の引継ぎを確約するために、協力する。会長エレクトは任期が始まる前に、委員会の空席を補填するために委員を任命し、各委員会委員長を任命し、企画会議を設ける責務がある。

第1節 常設部門・委員会の設置

- (a) 会長は理事会の承認の下に、機能別に分類された次の7つの常設部門を設置し、理事・役員の中からそれぞれの担当責任者を任命する。(→第2条第2節)
- 会員組織強化部門
 - クラブ広報部門
 - クラブ管理運営部門
 - 職業奉仕・奉仕理念部門
 - 社会奉仕プロジェクト部門
 - 国際奉仕プロジェクト部門
 - 奨学事業部門
- (b) 会長は、理事会の承認の下に、上記常設部門について、必要と考える特定分野を担当する委員会を設置する。その委員長は委員会委員としての経験者を任命することが望ましい。
- (c) 会長はまた、理事会の承認の下に、必要に応じてクラブ独自の特別委員会や実行委員会を設置することができる。
- (d) 会長は、職権上すべての委員会の委員となり、その資格において委員会に付随するあらゆる特典をもつ。
- (e) 各委員会は本細則によって付託された職務と、会長または理事会が付託する事項を処理しなければならない。理事会によって特別の権限を与えられた場合を除き、これらの委員会は、理事会に報告してその承認を得るまでは行動してはならない。
- (f) それぞれの委員長はその委員会の定例会合に対して責任をもち、委員会の仕事を監督、調整する任務をもち、委員会の全活動について理事会に報告するものとする。
- (g) 以下の機能別部門の中で、特に指定された委員会については、その活動の一貫性・継続性を保つため、毎年3年の任期をもった1名ないし2名の委員を任命するのが望ましい。すなわち、前記委員会は、常にそれぞれ1名ないし2名の1年、2年、3年の任期をもつ委員によって構成されるべきである。(以下、3年委員会と呼称する)

第2節 会員組織強化部門

- (a) 会員組織強化部門は、クラブ組織強化のための、会員の勧誘と退会防止に関する包括的な計画を立て、実施する。
- (b) 会員組織強化部門担当役員（会長エレクト）は、会員組織強化に関する諸活動全般に対して責任をもち、かつ会員組織強化の各特定分野について設置されたあらゆる委員会の仕事を監督、調整する任務をもつ。
- (c) 会員組織強化部門担当役員（会長エレクト）は、会員組織強化部門推進会議を主宰する。推進会議は必要に応じ開催する。メンバーは会員組織強化部門のすべての委員会の委員長とする。

- (d) 会長は理事会の承認の下に会員組織強化に関する特定分野を担当する次の各委員会を設置する。

会員増強・職業分類委員会

会員選考委員会

ロータリー情報委員会

- (e) 会員選考委員会・ロータリー情報委員会は、3年委員会とする。

第3節 クラブ広報部門

- (a) クラブ広報部門は、一般の人々にロータリーについての情報を提供し、奉仕プロジェクト部門と連携してクラブの奉仕プロジェクトと奉仕活動を広報する計画を立て、実施する。また、会員間にロータリーの最新情報についての認識を深め、活動意欲を向上させる。

- (b) クラブ広報部門担当理事は、クラブ広報に関する諸活動全般に対して責任をもち、かつクラブ広報の各特定分野について設置されたあらゆる委員会の仕事を監督、調整する任務をもつ。

- (c) クラブ広報部門担当理事は、クラブ広報部門推進会議を主宰する。推進会議は必要に応じ開催する。メンバーはクラブ広報部門のすべての委員会の委員長とする。

- (d) 会長は理事会の承認の下にクラブ広報に関する特定分野を担当する次の各委員会を設置する。

広報委員会

ロータリーの友委員会

クラブ週報委員会

IT・記録保存委員会

第4節 クラブ管理運営部門

- (a) クラブ管理運営委員会は、クラブの円滑かつ効果的な管理運営に関連する諸活動を実施する。

- (b) クラブ管理運営部門担当役員（副会長）は、クラブ管理運営に関する諸活動全般に対して責任をもち、かつクラブ管理運営の各特定分野について設置されたあらゆる委員会の仕事を監督、調整する任務をもつ。

- (c) クラブ管理運営部門担当役員（副会長）は、クラブ管理運営部門推進会議を主宰する。推進会議は必要に応じ開催する。メンバーはクラブ管理運営部門のすべての委員会の委員長とする。

- (d) 会長は理事会の承認の下にクラブ管理運営に関する特定分野を担当する次の各委員会を設置する。

出席委員会

親睦活動委員会

プログラム委員会

ニコニコ BOX 委員会

健康管理委員会

第5節 職業奉仕・奉仕理念部門

- (a) 職業奉仕・奉仕理念部門は、奉仕プロジェクト部門と連携して、会員間にロータリーの認識を深め、活動意欲を向上させる。

- (b) 職業奉仕・奉仕理念部門担当理事は、職業奉仕・奉仕理念に関する諸活動全般に対して責任をもち、かつ職業奉仕・奉仕理念の各特定分野について設置されたあ

らゆる委員会の仕事を監督、調整する任務をもつ。

- (c) 職業奉仕・奉仕理念部門担当理事は、職業奉仕・奉仕理念部門推進会議を主宰する。推進会議は必要に応じ開催する。メンバーは職業奉仕・奉仕理念部門のすべての委員会の委員長とする。
- (d) 会長は理事会の承認の下に職業奉仕・奉仕理念に関する特定分野を担当する次の各委員会を設置する。

職業奉仕委員会

奉仕理念委員会

第6節 社会奉仕プロジェクト部門

- (a) 社会奉仕プロジェクト部門は、地元地域社会におけるニーズに応える教育的、人道的プロジェクトを企画し、実施する。
- (b) 社会奉仕プロジェクト部門担当理事は、社会奉仕プロジェクトに関する諸活動全般に対して責任をもち、かつ社会奉仕プロジェクトの各特定分野について設置されたあらゆる委員会の仕事を監督、調整する任務をもつ。
- (c) 社会奉仕プロジェクト部門担当理事は、社会奉仕プロジェクト部門推進会議を主宰する。推進会議は必要に応じ開催する。メンバーは社会奉仕プロジェクト部門のすべての委員会の委員長とする。
- (d) 会長は理事会の承認の下に社会奉仕プロジェクトに関する特定分野を担当する次の各委員会を設置する。

地域社会奉仕委員会

新世代奉仕委員会（ローターアクト・インターアクト担当）

奉仕開発委員会

第7節 国際奉仕プロジェクト部門

- (a) 国際奉仕プロジェクト部門は、国際的な教育的、人道的プロジェクトを企画し、実施する。
- (b) 国際奉仕プロジェクト部門担当理事は、国際奉仕プロジェクトに関する諸活動全般に対して責任をもち、かつ国際奉仕プロジェクトの各特定分野について設置されたあらゆる委員会の仕事を監督、調整する任務をもつ。
- (c) 国際奉仕プロジェクト部門担当理事は、国際奉仕プロジェクト部門推進会議を主宰する。推進会議は必要に応じ開催する。メンバーは国際奉仕プロジェクト部門のすべての委員会の委員長とする。
- (d) 会長は理事会の承認の下に国際奉仕プロジェクトに関する特定分野を担当する次の各委員会を設置する。

国際奉仕委員会

ロータリー財団委員会

第8節 奨学事業部門

- (a) 奨学事業部門は、資金的寄付とプログラムへの参加を通じて米山奨学会を支援し、また前橋国際奨学会の維持・拡大を図る計画を立て、実施する。
- (b) 奨学事業部門担当理事は、奨学事業に関する諸活動全般に対して責任をもち、かつ奨学事業の各特定分野について設置されたあらゆる委員会の仕事を監督、調整する任務をもつ。
- (c) 奨学事業部門担当理事は、奨学事業部門推進会議を主宰する。推進会議は必要に応じ開催する。メンバーは奨学事業部門のすべての委員会の委員長とする。

- (d) 会長は理事会の承認の下に奨学事業に関する特定分野を担当する次の各委員会を設置する。

米山奨学委員会

前橋 RC 国際奨学委員会

第9節 特別委員会部門

- (a) 会長は理事会の承認の下に必要なに応じてクラブ独自の活動を担当する次の特別委員会および実行委員会を設置する。

予算委員会

合唱を聴く会実行委員会

(くすのき写生大会実行委員会)

- (b) 特別委員会部門担当理事は、この部門に設置された委員会の諸活動が円滑に実施されるよう常設部門と調整を図り、委員会の仕事を支援する任務をもつ。

- (c) 特別委員会・実行委員会の委員長・委員は他の常設部門委員会の委員長または委員と兼任とする。

5. 各委員会の任務の明示 (→ 第 10 条 各委員会の任務)

CLP 版推奨クラブ細則では、委員会の任務についての一般的な注意点が短くコメントされているだけである。この第 10 条では、前条 (第 9 条) で示された各委員会について、前橋 RC における役割・任務を細かく記述することが望ましい。

以上、RI の推奨ロータリークラブ細則を基に、前橋 RC の実際の組織運営と理念・活動方針を適切に反映した、あるべき「前橋ロータリークラブ細則」を作成する際の要点を示した。

その他、第 4 条 役員の任務・第 12 条 財務・第 13 条 会員選挙の方法・第 15 条 議事の順序、等の項目については、前橋 RC の現状を具体的に表現したものとした。また、翻訳調の文体や訳語を、もっと分かりやすい言葉で表現するための検討も必要であろう。

次回 (2007 年 7 月) の細則改定作業に期待したい。

6. 次年度に向けて

当委員会 P A R T III は過去 3 年間ロータリーの進むべき方向について議論し、様々な意見を集大成した報告書である。逆に言えば、この報告書に辿り着くまで 3 年かかったということになる。この報告書が今後の前橋ロータリーの活動や組織運営に必ず役立つものと信じる。

各年度の委員会メンバーは当地域で夫々の業界を代表する見識の高い人達なので意見集約には手間取ったけれども、改革提言については具体的且つ実現可能な内容になっている。

今年 2 月に実施したアンケート調査を分析した結果、我々はロータリーの会員の意識がこの 3 年間で随分変化していることに気付く。満足度向上は当クラブが確実に進化している証左でご同慶の至りではあるが、同時に「ロータリーに対する理解度が深まると委員会活動が活発になる」。「委員会活動が活発化すれば満足度が上がる」。「満足度が上がれば次への期待感が上がる」。謂わば、“改革の善循環が始まっている”と言える。

この善循環は、委員会発足以来三代の会長（一昨年の江原会長、昨年の山田会長、今年度の平出会長）のリーダーシップの賜物であるが、我々はこの善循環を断ち切ってはならない。次年度へ向けて我々の切なる願いである。

次年度の課題は次の 3 点である。（本報告書 25 ページ）

1. 「人間関係を良くする」環境づくり。2. 社会的存在価値の向上。3. ロータリアンの人間的成長を育むシステムづくり。

上記の課題を達成するための方策が具体的提言 6 項目（本報告書 26 ページ）である。何れも重要であり、直ぐにでも取り組んで欲しいが一気に実現するのは困難と思われる。そこで改革提言 2 項目目の「研修プログラムの作成」は直ぐにでも理事会で検討し、着手していただければありがたい。

前橋ロータリークラブの改革運動は全国のロータリーの先駆けとして評価が非常に高いと漏れ聞くが、新たな発展を期するには「より個性的な活動をする」必要がある。ロータリーの本質は「クラブの自主性を尊重し、主体的な取り組みが奨励される」からである。我が前橋 RC の会員の質の高さを持てれば、近い将来、全国何処のロータリーにもない様な「オリジナルなクラブ」が実現することは決して不可能なことではない。

本報告書表紙のタイトルに「理念なき実践は暴挙であり、実践なき理念は空虚である」という警句を掲げた。ロータリーの活動は、理念の追求と共に理念に基づいた実践が欠かせない。理念と実践のバランスを失することのないよう、自戒の言葉としたい。

本報告書と 3 年間にわたる 21 世紀委員会活動が、私たちがクラブ・会員の理想像に向けてステップアップするきっかけになることを確信している。

<パスト会長メッセージ>

たかが、、、ロータリー されど、、、ロータリー

パスト会長（2003—04年） 江原 毅

早いもので、私が50周年記念事業の終了後、理事会にて承認いただいて立ち上げさせていただいた「21世紀特別委員会」も、目標としていた3年目を迎え、今年度にて一区切りをつける時期に到達いたしました。山田年度、平出年度とご理解ある会長に恵まれ、そして、情熱あふれるメンバーに支えられ、数々の成果を挙げてこられたものと、ありがたく感謝しております。私がこの特別委員会を立ち上げた理由は、なんと言っても、3年前に曾我隆一ガバナーをわが前橋クラブから輩出すべく、懸命に曾我会員をお願いしていたときから、若し受けてくれるならば、必ず其のバックアップをクラブ全体としてしなければならぬと私自身は考え、ガバナーとなったときのロータリークラブ改革の研究をガバナーの出身クラブが自ら実行していなければ、其の論理的裏付けがなされず、他クラブへの十分な指導力を持てないのではないかと考えたからでした。

幸いにも、曾我隆一会員はガバナーとしての決意を固めてくださり、そして、理解ある山田直前会長、そして同じく理解ある平出現会長の今年度、曾我ガバナーが誕生して、この「21世紀特別委員会」は其の役目を十分に果たしたものと考えております。その理由の一つとして、2005年11月26日に東京 新高輪プリンスホテルで開催された、第34回ロータリー・ゾーン研究会の分科会「ロータリー情報とクラブ強化・CLP」において、わが曾我隆一ガバナーは「クラブ強化と地区改革について」と題して、居並ぶパストガバナーを前に堂々と論陣を張り、わがクラブの「21世紀特別委員会」を詳しく説明し、自らの出身クラブがRIのCLP公表より先にCLPと同じような方向性を見出していたことを、さりげなく発表していることが挙げられ、私としては大変うれしく思い、当初の目的を十分果たしたと思っているからであります。

時が流れ、時代が変わり、いつの世もすべての事象が刻々と変化していくことは、誰にも否めません。時の試練と、社会の厳しい眼をこともなげに通過してきたロータリークラブも、先輩の皆様方の努力の賜物と、感謝せざるをえません。そして、其の感謝の気持ちを表す方法として、歴史と伝統を大切にしながら、ロータリークラブとしての先見性と指導性を十分に発揮し、時代に合った改革をしていくべきだと思います。いつの世も、改革は困難です。だからと言って誰もしなければ、前橋ロータリークラブは、いったいどこに行くのでしょうか。これからの、若い会員の方々に期待申し上げます。

「たかがロータリー、されどロータリー」永遠の課題でしょう！！

其の挑戦に果敢に挑んでくださった、3年間にわたる委員会の構成メンバーの方々、そして、アンケート等に積極的にご協力くださった、前橋ロータリークラブの全メンバーの皆様に、心より厚く御礼申し上げて、締めくくりのご挨拶とさせていただきます。長い間本当にありがとうございました。

さらなる前進

直前会長（2004－05 年） 山田 美光

前橋ロータリークラブ創立当時の会員は35名だったが、歴代の会長をはじめとし全会員の努力の賜で、現在105名、世帯も大きくなり、時代と共に社会も変わったがこれを支えるバックボーンは大丈夫か、この見直し作業が50周年を契機に、21世紀特別委員会に与えられた使命だったと思う。

江原、山田、平出年度の3年間、烏本委員長をはじめとする委員会メンバーはロータリー精神の理解を深め、前橋ロータリーの独自性を追求してきた。その努力にまず敬意を表したい。

もとより、ロータリーの精神は自己研鑽を積み、地域社会と世界の平和に貢献すべき奉仕を重ねる、利他の心に原点がある。そして善き思い、善き行動を共にする会員が親睦を図り、友情を深める場でもある。

21世紀委員会では、前橋ロータリークラブの未来の出来事を予測することは出来ないが、前橋ロータリークラブがどのような未来でありたいかを明確にし、ビジョンを描き出す困難な作業に取り組んできた。

結果、ロータリー理念の共有化、知識の向上が図られ、クラブの活性化がなされ、又、社会奉仕と広報についても徐々にではあるけれど、前に進んでいる様に思われる。

この、報告書がこれからの前橋ロータリークラブの発展の一助になることを期待している。

前橋ロータリークラブはいつでも、より良くあろうとする“学ぶ心”をもつクラブ。“心はいつも育ちざかり”このような前橋ロータリークラブでありたい。

おわりに、烏本委員長には3年にわたり、委員長を務められ、ご苦勞に感謝するとともに委員の皆様にも心より感謝申し上げます。ご苦勞様でした。

委員会メンバー所感

生涯奉仕の精神を 池畠 弘尚

鳥本委員長のリーダーシップのお陰で、21世紀委員会から「PARTIIIのクラブ改革提言」の報告書が会員諸兄に配布される日も間近となりました、3年間の参加委員の努力が実りアンケートの分析結果をみても、魅力あるクラブ活動へ向かって進展してゆくように思われます。

50年を超える歴史と伝統を誇る前橋クラブに、新しい光があたり、変化と進化を加え、会員の資質向上がはかられ、1人1人が満足感を高めつつ、地域社会には、存在価値が認められ、国際、国内プログラムにも参加・協力してゆく会員の理想像は、21世紀に再活性化し魅力あるクラブに健全な姿で、変身してゆくと確信しております。

当委員会では、学ぶことが多く、参加会員と、すばらしい学び舎を提供頂いた、群馬セキスイハイムの皆様には、感謝致しております。

戦後の食糧・物資の少ない時代・高校3年のとき前商のJRC（青少年赤十字団）の団長を務めました。奉仕の言葉は知っていましたが、奉仕の内容は分からず、活動が続けたのが奉仕に参加する初めでした。18歳で卒業し、社会人となり第一歩を踏みだしてからは、世の中を良くしたい気持ちで自己と社会を両立することを考え、奉仕の道へも、積極的に参加して参りました。

昨年古希を迎え決意したことは、健

康づくりと己の能力を磨き、多くの人々と、友情を分かち合い、奉仕を続けることです。職業奉仕を中心とするI serve と社会奉仕活動を中心とするWe serve を共に取り組み、共生社会で生涯奉仕を現役で務めたい所存です。

犯人は「21世紀委員会」 板垣 忍

それまでただボーっとしていました。だけど少し知ると興味が喚起されます。興味が出てくると調べようと思います。調べてみると好きになります。好きになると参加したくなります。一生懸命参加するということは生活の一部になるということです。

ロータリー精神が生活の一部になるほど完成されたとはとても言えませんが、積極的に参加しようという意識はかなり高まったと自覚しています。その積極的参加を促した犯人は「21世紀委員会」でした。

この場での知識の共有化や討論を通じて楽しみながら学びましたし、何よりもメンバーとの距離が近くなったと感じられるようになりました。友情を育むということは、相手との価値観の違いを認め合い尊敬しあうことです。個性豊かな方々と多くの時間を共有できたことに感謝します。ありがとうございました。

なお、この犯人は今年いっぱい逮捕されますが、したたかなヤツなのできっとそのうち脱走してまた暴れると思いますよ。

3年間の総括 委員長 鳥本 安彦

3年前、当時の江原会長から「この度、魅力あるクラブの再生のために特別委員会を創設する」ので協力してほしいと要請され、その時は「ロータリーを研究するのも悪くないか」と軽い気持ちで引き受けました。ロータリーの本質に突き進むうちに「ロータリーの理念の追求とその実践は困難な課題ではあるが、やりがいのある任務だ」と思うようになりました。また会社の経営理念と共通するところが大いにあり、親近感を覚えたものでした。

21世紀委員会は3年間で29回の会合と座談会をこなし、3年目の今回は6項目の改革提言を提示しています。クラブの再生を考えると常に3つのことが念頭にありました。それは「ロータリーライフは楽しく」「地域社会において存在感を示す」「ロータリーらしいオリジナルな奉仕活動を」です。

メンバーは地域で業界を代表する見識の高い方々ばかりで白熱した議論もあり、意見の集約には苦労したこともありました。結果として提言は、メンバーの意見をよく採り入れたロータリーの可能性を期待できる内容に纏っている、と自負しています。

この3年間で会員のロータリーに対する意識や理解が進んだように思います。アンケート調査におけるフリーアンサーの多さがそのことを物語っています。その内容も的確で、会員各位のロータリーに対する期待感を感じます。

最後に、当委員会に特別の理解と協

力を賜りましたメンバーの皆様、オプザーバーとして多大な支援を得ました3代の会長様に心から感謝を申し上げます。

楽しくなければロータリーではない！

藤澤 茂

21世紀委員会活動を第2期、第3期と2年に亘り関わらせて頂き、私なりに出した結論は、前回とほとんど同じ内容になりました。

アメリカのシカゴで4人の仲間が集まって始まったロータリーですが、ポールハリスが始めた動機の本音が、それは“寂しかったから”、つまり仲間が欲しかったと言う事でした。

私達が例会として行っているロータリーも先ずは食事をしながら、情報交換、四方山話、親睦を図りながら友達作りが出来て、例会に行けば仲間が居て、自分の知らない分野の話が聞ける、と言った事が会員の望んでいる事でした。

その事は今回実施した「会員満足度アンケートの分析結果」にも出ていますが、“人間関係を良くしたいと思っている”項目が会員の皆さんの一番の関心事から推測すると、ロータリーの本質は“友達作り”なのかなと思いますし、また、「クラブ外奉仕活動」を充実させ、ロータリーの地位向上を図るべきだと」の意見も見受けられますが、いざ自分が委員会の担当に指名されると、意気込みがトーンダウンしてしまうのもロータリーの特徴だと感じています。

やはり、ロータリーは『会員卓話を充実させ例会を楽しくする事』（例会

に行くのが楽しみになる)、『自分の仕事を充実させ職業奉仕する事』(ロータリアンの方が日頃行っている事は社会に認めてもらっている)、『委員会活動以外の特別委員会は最小限にする事』(働き盛りの会員の時間的な負担を極力少なくして例会に出席してもらう)、以上の3つが退会防止の為に有効なロータリー活動指針ではないかと感じました。

話は変わりますが、私が副会長を仰せつかっていますJRI C (ジェリック:全日本ロータリアンインターネット協議会)では“楽しくなければロータリーではない!”が共通の合言葉になっていて、全国のロータリアン(350名の会員)とネット上の付き合いをしています。全国に居る様々な地域の職業や役職の方々と情報交換し、各地へ出向いて行って会うのが、とても楽しみになっています。やはり楽しいから続けていられるのだと思っています。

持続する意志 副委員長 本田 博己

21世紀委員会に携わった3年間は、私にとってロータリアンとして大きく成長する機会となりました。

本報告書でも分析されていますが過去3回の「会員満足度アンケート」の結果は、前橋RC会員の意識が大きく変わり、満足度が飛躍的に向上していることを示しています。21世紀委員会の活動と提言をきっかけとした3年間の継続的クラブ改革の成果であるといってよいと思います。

この21世紀委員会を立ち上げた江原 毅会長、翌年の山田美光会長、

そして今年度の平出昌男会長には、オブザーバーとして委員会活動に終始参画していただき、また、委員会運営に絶大なご支援をいただきました。あらためて御礼申し上げます。お三人のクラブ改革への熱い意志の継承が、前橋RCの新しい伝統を創りつつあると感じます。

理想のクラブづくりに終わりはありません。今後も毎年度のクラブリーダーがその理念を継承し、リーダーシップを発揮して継続的改善活動に取り組んでいただくことを期待しています。そして、何より自分自身が理想のロータリアンに向かって、今後も自己練磨していかなければなりません。持続する意志を強く持ちたいと思います。

鳥本委員長、本当にお疲れ様でした。あなたのリーダーシップと素晴らしい人間性で委員会はモチベーションが高まり、大きな成果をあげることができました。委員会の皆様、熱心な議論をありがとうございました。多くの会員の皆様にも活動中貴重なアドバイスをいただき、ありがとうございました。

最後に、PARTIIと今回のPARTIII報告書の資料作成・整理・編集の労をとっていただいた鴻田さん、お疲れ様、ありがとうございました。

満足感のある例会 関口 進也

21世紀委員会に出席して、クラブ強化、奉仕活動、財務等さまざまな問題を話し合ってきました。

しかし、基本はまず例会に出席しておもしろかった、内容が良かった、た

めになった、という満足感だと思いました。会員一人ひとりの満足度が増してくれば、自然と出席率も良くなりますし、委員会にも積極的に参加し、奉仕活動も、全ての面で良い方向に向いてくると思います。

その良い例が、会員満足度アンケートとビジョンアンケートです。結果を見ると上位にランクされるのは、

- ※ より良い講演者を増やす
- ※ 親睦と友情を育む機会がある
- ※ 明るく活気に満ちた組織風土である

又、歴史と伝統に安住せず、また前例にとらわれず、内外の環境変化に対応し、新しい試みに挑戦している、とあります。

この様に、非常に良くなってきたアンケート結果をみても、当クラブがさまざまな面で改善をしてくれているといえるでしょう。

したがって、1時間という短い例会をどの様に有効に使い、会員に楽しんでもらうかが最大のポイントの様に思われます。

そのためには皆様から例会に対するアドバイス、良い卓話者をご紹介いただければと思います。

「2度目の21世紀委員会」 望月和子

2度目の21世紀委員会でした。残念ながら余り出席できませんでした。例会にかろうじて出席している私にとりましては、内容について行くのがやっとという感じでした。

ただ前回の時と較べますと、少しは内容が理解できるようになりました。指名委員会の議題が、印象に残ってい

ます。会の運営がスムーズに、そして会員が理解しやすい方法が、望まれると思います。ただ理屈だけでは、うまく行かない場合もありますし、クリアカットにいかないことも、たくさんあると思います。

今までの伝統を踏まえた上で、社会のニーズに合わせて、少しずつ新しい意見を取り入れて変えていくといいのではないかと、感じました。

今後の宿題 鴻田 敦

前橋ロータリークラブに入会して既に3年、そのうちの2年を21世紀委員会に関わらせて頂きました。

最初の1年目はメンバーの方々の迫力に気後れし委員会の議論もただただ耳を傾けその情熱に感心するだけでしたが、2年目となる本年度は自分自身の見解をおぼろげながら持ちつつあるように感じました。

また、満足度アンケート、ビジョンアンケートの集計を担当し、当クラブ会員の様々な意見を目にする機会にも恵まれました。100名を超す会員の率直な意見を拝見し、感動もし、また時にはがっかりもしました。ロータリークラブに対する考え方、参加の度合いその他諸々、会員には様々な意見がありその一つ一つに考えさせられました。(がっかりしたものも含めて)

ただ当クラブには鳥本委員長はじめロータリーについて真摯に議論をする多くのメンバーとその土壤があるはずです。

21世紀委員会報告書3年分の鳥本委員長の情熱と労力を無にしないため、一会員としてできることは何か、

私の今後の宿題となりそうです

頼もしき存在

萩原 哲

21世紀委員会に参加させていただき、多くのことを勉強することができ、感謝しています。「ロータリーはいかにあるべきか」といった難しいテーマでしたが、和気あいあいとした雰囲気の中で、かなり核心に迫った議論が展開されたと思います。

私自身が考えるロータリークラブは、地域の人々に尊敬され、頼りにされる存在です。ロータリーのようにさまざまな職業の人たちが定期的に集まり、講話を聞いたり情報交換をしたり、時には一つの目標に向かって行動する団体はあまり見当たりません。長い歴史のなかで社会奉仕の心が会員一人一人に脈々と継承され、そのネットワークは前橋から日本全国、世界へと広がっています。

会員アンケートなどで、地域とのかかわりの少なさを指摘する声が出ましたが、日常生活では直接の接点がなくともロータリークラブの存在を頼もしいと感じている人たちは意外と多いのではないのでしょうか。

司馬遼太郎は「総帥たるものは無言で幕営の奥ふかくすわっているだけで、部下は富岳の鎮まりにも似た頼もしさを感じる」と書いています。ふだんは表に出なくても、どこかどっしりとしていて頼りにされる。そんな団体があることは、社会にとってとても大切なことだと思います。

21世紀委員会に参加して 奥野 和義

今回、21世紀委員会のメンバーの

1人として参加させて頂きまして、ありがとうございました。が、あまり参加できず申し訳ありませんでした。

少ない参加回数でしたが、普段の例会では聞けないロータリークラブへの意見・問題意識・運営・未来等々の話を聞くことが出来て本当に良かったと思いつつ、意見を求められても当たり障りの無いことしか言えない自分の勉強不足を痛感致しました。

前橋ロータリークラブ在籍2年と少ない経験の中で、2回の「NHK全国学校音楽コンクール」参加校の合唱を聴く会は、子育て真っ最中の親として、未来の前橋を担っていく子ども達や父兄に「前橋ロータリークラブ」を知って頂けるすばらしい事業であり、交流の場であり、広報活動だと思っています。

今後、時代のニーズに合わせた臨機応変な運営・活動が出来、一歩先に出たロータリークラブになれるように期待し、協力できるようにもっと勉強・理解していこうと思います。ありがとうございました。

＊掲載は会員歴順

【資料編】

① 委員会活動記録

本年度 21 世紀委員会の活動記録は以下の通りです。(特に記載のない場合は群馬セキスイハイム株式会社の会議室をお借りし 18 時から 20 時までの時間にて委員会を開催しました。)

1. 第 1 回委員会 平成 17 年 10 月 11 日(火)
鳥本委員長以下 14 名出席 (オブザーバーとして曾我ガバナー)
2. 第 2 回委員会 平成 17 年 10 月 25 日(火)
鳥本委員長以下 11 名出席
3. 第 3 回委員会 平成 17 年 11 月 8 日(火)
鳥本委員長以下 10 名出席 (赤城山麓清芳山荘にて)
4. 第 4 回委員会 平成 17 年 12 月 6 日(火)
鳥本委員長以下 12 名出席
5. 第 5 回委員会 平成 18 年 1 月 17 日(火)
鳥本委員長以下 14 名出席
6. 第 6 回委員会 平成 18 年 3 月 7 日 (火)
鳥本委員長以下 13 名出席
7. 第 7 回委員会 平成 18 年 5 月 9 日 (火)
鳥本委員長以下 13 名出席

8. ビジョンを語る座談会① 平成 18 年 4 月 10 日 (月)
会員 12 名出席
9. ビジョンを語る座談会② 平成 18 年 4 月 14 日 (金)
会員 10 名出席
10. ビジョンを語る座談会③ 平成 18 年 4 月 17 日 (月)
会員 10 名出席

以 上

② 会員満足度アンケート フォーマット

会員満足度アンケート

国際ロータリー第 2840 地区
前橋ロータリークラブ

このアンケートは、会員の、クラブの活動・運営に対する満足度を知るためのものです。クラブ運営改善の基礎資料となりますので、会員の皆様全員に記入をお願いしています。無記名ですので、率直なご意見をお聞かせください。（以下の質問の該当する項目に印を付けてください。）

2. あなたは、前橋ロータリークラブに受け入れられている（歓迎されている）と感じますか。 ☐ はい ☐ いいえ

1-2 「いいえ」の場合、どうしてですか。（該当する項目すべてに印を付けてください）

- ☐ クラブが排他的である ☐ 他の会員は自分とは異質であると感じる
☐ 自分が他の会員と交流する努力をしていない
☐ 他の会員が私と交流する努力をしていない
☐ その他の理由（具体的に） _____

2. あなたは、前橋ロータリークラブの組織としての現状をどう思いますか。（該当する項目すべてに印を付けてください）

- ☐ 現状に満足している ☐ 現状に不満な点がある
☐ 活発に活動している ☐ 活動はあまり活発ではない
☐ 自由闊達でオープンな風土がある ☐ 何事も当り障りのない意見が通る
☐ 明るく打ち解けた雰囲気である ☐ 堅苦しくよそよそしい雰囲気である
☐ 前例主義である ☐ 変化に柔軟に対応し、新しい試みに積極的である
☐ その他 _____

4. 前橋ロータリークラブが、RI や地区の提唱する、下記の活動に参加している度合いについてどう思いますか。

活動の種類

クラブの参加の度合い

- | | | | | |
|------------------|-----------------------------|-----------------------------|------------------------------|--------------------------------|
| 新会員勧誘 | ☐ 過度 | ☐ 適当 | ☐ 不十分 | ☐ わからない |
| 会員のための初エディションと教育 | ☐ 過度 | ☐ 適当 | ☐ 不十分 | ☐ わからない |
| 地域への奉仕プロジェクト | ☐ 過度 | ☐ 適当 | ☐ 不十分 | ☐ わからない |

国際的奉仕プロジェクト	☐ 過度	☐ 適当	☐ 不十分	☐ わからない
クラブの広報活動	☐ 過度	☐ 適当	☐ 不十分	☐ わからない
募金活動	☐ 過度	☐ 適当	☐ 不十分	☐ わからない
ロータリー財団活動	☐ 過度	☐ 適当	☐ 不十分	☐ わからない
米山奨学活動	☐ 過度	☐ 適当	☐ 不十分	☐ わからない
地区主催の会合・プロジェクト	☐ 過度	☐ 適当	☐ 不十分	☐ わからない
他クラブとの交流・親睦活動	☐ 過度	☐ 適当	☐ 不十分	☐ わからない

4. 前橋ロータリークラブの活動に対するあなた自身の参加状況を記してください。

活動の種類	参加状況		
例会	☐ 積極的に参加	☐ 義務的に参加	☐ 不参加
委員会活動	☐ 積極的に参加	☐ 義務的に参加	☐ 不参加
会員増強	☐ 積極的に参加	☐ 義務的に参加	☐ 不参加
会員のための初エンターションと教育	☐ 積極的に参加	☐ 義務的に参加	☐ 不参加
地域への奉仕プロジェクト	☐ 積極的に参加	☐ 義務的に参加	☐ 不参加
国際的奉仕プロジェクト	☐ 積極的に参加	☐ 義務的に参加	☐ 不参加
クラブの広報活動	☐ 積極的に参加	☐ 義務的に参加	☐ 不参加
募金活動	☐ 積極的に参加	☐ 義務的に参加	☐ 不参加
ロータリー財団活動	☐ 積極的に参加	☐ 義務的に参加	☐ 不参加
米山奨学活動	☐ 積極的に参加	☐ 義務的に参加	☐ 不参加
親睦活動	☐ 積極的に参加	☐ 義務的に参加	☐ 不参加

5. あなたは、クラブの活動およびプロジェクトへの参加に対し満足していますか。

☐ 非常に満足 ☐ 満足 ☐ 不満足

5-2 「不満足」の場合、どうしてですか。（該当する項目すべてに印を）

- ☐ 自分の知識不足 ☐ その活動についての情報が不足している
☐ 性格的に合わない ☐ リーダーや他の会員から支援がない
☐ 出費が多い ☐ 個人的な時間の不都合
☐ その他（具体的に）_____

6. 下記の会員活動に関する費用をどう思いますか。

費用の種類	費用に対する見解		
クラブ会費	☐ 過度	☐ 妥当	☐ 不十分
夜間例会・情報集会等の臨時の会費	☐ 過度	☐ 妥当	☐ 不十分
奉仕プロジェクトへの寄付	☐ 過度	☐ 妥当	☐ 不十分
ロータリー財団への寄付	☐ 過度	☐ 妥当	☐ 不十分

米山奨学会への寄付	☐ 過度	☐ 妥当	☐ 不十分
義援金・募金等	☐ 過度	☐ 妥当	☐ 不十分
親睦活動	☐ 過度	☐ 妥当	☐ 不十分
その他（具体的に）_____	☐ 過度	☐ 妥当	☐ 不十分

7. あなたは、毎週の例会を楽しまれていますか。

☐ はい ☐ いいえ

7-2 「いいえ」の場合、どうしてですか。

理由（具体的に）_____

8. 前橋ロータリークラブの会合をより良いものにするためのアイデアをお聞かせください。（該当する項目すべてに印を付けてください）

- | | |
|---|--|
| ☐ より良い講演者 | ☐ 親睦活動をより強調する |
| ☐ プログラムのテーマを充実する | ☐ 職業に関する情報を増やす |
| ☐ 奉仕の機会を増やす | ☐ 時間の管理をより良くする |
| ☐ より多くの会員が活躍する機会を増やす | |
| ☐ 地域社会と交流する機会を増やす | ☐ 家族が参加する機会を増やす |
| ☐ その他（具体的に）_____ | |

9. あなたの配偶者／パートナー／家族は、あなたがロータリーに参加していることに
関してどのように思っていますか。（該当する項目すべてに印を付けてください）

- | | |
|--|---|
| ☐ 誇りに思っている | ☐ 時間をかけすぎと思っている |
| ☐ もっと知りたいと思っている | ☐ 費用がかかり過ぎと思っている |
| ☐ 他のロータリー配偶者／パートナー／家族との交流を求めている | |
| ☐ ロータリーのことをよく知らない／関心がない | |
| ☐ その他（具体的に）_____ | |

○最後に、あなたのロータリー歴を教えてください。

☐ 3年以内 ☐ 4～10年 ☐ 11～20年 ☐ 21年以上

ご協力ありがとうございました。

2006. 2. 7実施

③ ビジョンアンケート フォーマット、クラブ・会員の理想像

前橋RC ビジョン・アンケート

前橋RC 21世紀委員会

このアンケートは、前橋ロータリークラブの将来像を議論し全員で共有できるビジョンを策定するため、会員各位の忌憚のないご意見をお聞きするものです。以下の質問A、Bは、第1期21世紀委員会で検討しとりまとめた「クラブ・会員の理想像（案）」（別紙参照）について、ご意見をお聞きしています。該当する項目に印を付けてください。質問C、D、E、Fは自由にご意見をお書きください。

A. 「クラブの理想像」に関して、下記のそれぞれの項目が重要かどうか、クラブの現状をどう思うか、あなたのお考えをお聞かせください。

1. 明るく活気に満ちた組織風土である。

[重要性] ☐ 極めて重要 ☐ 重要 ☐ 重要でない

[現 状] ☐ 極めて満足 ☐ 満足 ☐ 不満 ☐ 極めて不満

2. 会員のニーズに適った会員本位の運営を行っている。

[重要性] ☐ 極めて重要 ☐ 重要 ☐ 重要でない

[現 状] ☐ 極めて満足 ☐ 満足 ☐ 不満 ☐ 極めて不満

3. 会員は、充実したロータリーライフを享受し、満足度が高い。

[重要性] ☐ 極めて重要 ☐ 重要 ☐ 重要でない

[現 状] ☐ 極めて満足 ☐ 満足 ☐ 不満 ☐ 極めて不満

4. (地域) 社会に存在価値を認められている。(地域のボニョリーダー)

[重要性] ☐ 極めて重要 ☐ 重要 ☐ 重要でない

[現 状] ☐ 極めて満足 ☐ 満足 ☐ 不満 ☐ 極めて不満

5. 例会や委員会活動が活発である。

[重要性] ☐ 極めて重要 ☐ 重要 ☐ 重要でない

[現 状] ☐ 極めて満足 ☐ 満足 ☐ 不満 ☐ 極めて不満

6. 理事会がリーダーシップを発揮している。

[重要性] ☐ 極めて重要 ☐ 重要 ☐ 重要でない

[現 状] ☐ 極めて満足 ☐ 満足 ☐ 不満 ☐ 極めて不満

7. 入会を希望する会員候補者が多い。

[重要性] ☐ 極めて重要 ☐ 重要 ☐ 重要でない

- [現 状] ☐ 極めて満足 ☐ 満足 ☐ 不満 ☐ 極めて不満
8. **会員に多様な「奉仕の機会」を提供できる。**
- [重要性] ☐ 極めて重要 ☐ 重要 ☐ 重要でない
- [現 状] ☐ 極めて満足 ☐ 満足 ☐ 不満 ☐ 極めて不満
9. **独自の奉仕プログラムを持っている。**
- [重要性] ☐ 極めて重要 ☐ 重要 ☐ 重要でない
- [現 状] ☐ 極めて満足 ☐ 満足 ☐ 不満 ☐ 極めて不満
10. **専門職務者同士の「事業上の発想の交換」が活発に行われている。**
- [重要性] ☐ 極めて重要 ☐ 重要 ☐ 重要でない
- [現 状] ☐ 極めて満足 ☐ 満足 ☐ 不満 ☐ 極めて不満
11. **会員の学習と成長の環境が整っている。**
- [重要性] ☐ 極めて重要 ☐ 重要 ☐ 重要でない
- [現 状] ☐ 極めて満足 ☐ 満足 ☐ 不満 ☐ 極めて不満
12. **親睦と友情を育む機会がある。**
- [重要性] ☐ 極めて重要 ☐ 重要 ☐ 重要でない
- [現 状] ☐ 極めて満足 ☐ 満足 ☐ 不満 ☐ 極めて不満
13. **バランスのとれた職業構成が保たれている。**
- [重要性] ☐ 極めて重要 ☐ 重要 ☐ 重要でない
- [現 状] ☐ 極めて満足 ☐ 満足 ☐ 不満 ☐ 極めて不満
14. **会員基盤が安定しており、成長力がある。**
- [重要性] ☐ 極めて重要 ☐ 重要 ☐ 重要でない
- [現 状] ☐ 極めて満足 ☐ 満足 ☐ 不満 ☐ 極めて不満
15. **「歴史と伝統」に安住せず、また前例にとらわれず、内外の環境変化に対応し、新しい試みに挑戦している。**
- [重要性] ☐ 極めて重要 ☐ 重要 ☐ 重要でない
- [現 状] ☐ 極めて満足 ☐ 満足 ☐ 不満 ☐ 極めて不満
16. **指導者を養成したり、有益な情報・実例を発信したりできる、他の模範となるリーディング・クラブである。**
- [重要性] ☐ 極めて重要 ☐ 重要 ☐ 重要でない
- [現 状] ☐ 極めて満足 ☐ 満足 ☐ 不満 ☐ 極めて不満

A-2. 上記 16 項目の「クラブの理想像」のうち、あなたが考える優先項目上位 5 項目の番号を記入してください

1 位_____ 2 位_____ 3 位_____ 4 位_____ 5 位_____

B. 「会員の理想像」に関して、下記のそれぞれの項目が重要かどうか、あな

た御自身の現状をどう思うか、あなたのお考えをお聞かせください。

1. 善良な市民である。

[重要性] ☐ 極めて重要 ☐ 重要 ☐ 重要でない
[現 状] ☐ 極めて満足 ☐ 満足 ☐ 不満 ☐ 極めて不満

2. ロータリーの「奉仕理念」を深く理解し、信奉している。

[重要性] ☐ 極めて重要 ☐ 重要 ☐ 重要でない
[現 状] ☐ 極めて満足 ☐ 満足 ☐ 不満 ☐ 極めて不満

3. 高い職業倫理を持ち、自らの事業の社会的価値の向上に努めている。

[重要性] ☐ 極めて重要 ☐ 重要 ☐ 重要でない
[現 状] ☐ 極めて満足 ☐ 満足 ☐ 不満 ☐ 極めて不満

4. 学習意欲が旺盛で、人間的成長を続けている。

[重要性] ☐ 極めて重要 ☐ 重要 ☐ 重要でない
[現 状] ☐ 極めて満足 ☐ 満足 ☐ 不満 ☐ 極めて不満

5. クラブ外の社会で、積極的に奉仕の実践を行っている。

[重要性] ☐ 極めて重要 ☐ 重要 ☐ 重要でない
[現 状] ☐ 極めて満足 ☐ 満足 ☐ 不満 ☐ 極めて不満

6. 会員同士の親睦と友情を大切にする。

[重要性] ☐ 極めて重要 ☐ 重要 ☐ 重要でない
[現 状] ☐ 極めて満足 ☐ 満足 ☐ 不満 ☐ 極めて不満

7. クラブ奉仕に積極的に参加している。

[重要性] ☐ 極めて重要 ☐ 重要 ☐ 重要でない
[現 状] ☐ 極めて満足 ☐ 満足 ☐ 不満 ☐ 極めて不満

8. RI 提唱の奉仕プロジェクトへ、積極的に参加している。

[重要性] ☐ 極めて重要 ☐ 重要 ☐ 重要でない
[現 状] ☐ 極めて満足 ☐ 満足 ☐ 不満 ☐ 極めて不満

9. クラブを超えた指導力を身につけるよう努力している。

[重要性] ☐ 極めて重要 ☐ 重要 ☐ 重要でない
[現 状] ☐ 極めて満足 ☐ 満足 ☐ 不満 ☐ 極めて不満

B-2. 上記9項目の「会員の理想像」のうち、あなたが考える優先項目上位5項目の番号を記入してください

1位_____ 2位_____ 3位_____ 4位_____ 5位_____

C. 上記項目以外に、クラブ・会員の理想像の要素として重要とお考えのことがあればお聞かせください。

クラブの理想

☐

☐

☐

会員の理想

☐

☐

☐

- D. 前橋RCの現状で改善が必要だと思われることがあれば、具体的にお書きください。

- E. あなたにとって、ロータリークラブの魅力は何ですか。

- F. その他、どんなことでも

- 最後に、あなたのロータリー歴を教えてください。

☐ 3年以内 ☐ 4～10年 ☐ 11～20年 ☐ 21年以上

ご協力ありがとうございました。

2月14日（火）例会時までにご提出ください。

2006.2.7

前橋RC 21世紀委員会

前橋ロータリークラブ クラブ・会員の理想像 (案)

〈第1期21世紀特別委員会報告書 14 ページ (2004.6.30)〉

クラブの理想

1. 明るく活気に満ちた組織風土である。
2. 会員のニーズに適った会員本位の運営を行っている。
3. 会員は、充実したロータリーライフを享受し、満足度が高い。
4. (地域) 社会に存在価値を認められている。(地域の北°ニオンダー)
5. 例会や委員会活動が活発である。
6. 理事会がリーダーシップを発揮している。
7. 入会を希望する会員候補者が多い。
8. 会員に多様な「奉仕の機会」を提供できる。
9. 独自の奉仕プログラムを持っている。
10. 専門職務者同士の「事業上の発想の交換」が活発に行われている。
11. 会員の学習と成長の環境が整っている。
12. 親睦と友情を育む機会がある。
13. バランスのとれた職業構成が保たれている。
14. 会員基盤が安定しており、成長力がある。
15. 「歴史と伝統」に安住せず、また前例にとらわれず、内外の環境変化に対応し、新しい試みに挑戦している。
16. 指導者を養成したり、有益な情報・実例を発信したりできる、他の模範となるリーディング・クラブである。

会員の理想 (真のロータリアン)

1. 善良な市民である。
2. ロータリーの「奉仕の理想」を深く理解し、信奉している。
3. 高い職業倫理を持ち、自らの事業の社会的価値の向上に努めている。
4. 学習意欲が旺盛で、人間的成長を続けている。
5. クラブ外の社会で、積極的に奉仕の実践を行っている。
6. 会員同士の親睦と友情を大切にする。
7. クラブ奉仕に積極的に参加している。
8. RI 提唱の奉仕プロジェクトへ、積極的に参加している。
9. クラブを超えた指導力を身につけるよう努力している。

④ CLP に基づく推奨ロータリークラブ細則 (RI)

推奨ロータリー・クラブ細則 (CLP に基づく)

* _____ ロータリー・クラブ細則

*注：本細則は単に推奨されるにすぎない。従って、ロータリー・クラブは、標準ロータリー・クラブ定款、RI 定款、RI 細則、およびロータリー章典と矛盾しない限り、クラブ自身の事情に応じて変更することができる。もし疑問ある場合は、その変更案を RI 事務総長に提出して RI 理事会の審議を乞わなければならない。

第 1 条 定義

1. 理事会：本クラブの理事会
2. 理事：本クラブの理事会メンバー
3. 会員：名誉会員以外の本クラブ会員
4. RI：国際ロータリー
5. 年度：7 月 1 日に始まる 12 カ月間

第 2 条 理事会

本クラブの管理主体は本クラブの会員 _____ 名により成る理事会とする。すなわち本細則第 3 条第 1 節に基づいて選挙された _____ 名の理事、会長、副会長、会長エレクト（または、後任者が選挙されていない場合は会長ノミニー）、幹事、会計および直前会長である。

第 3 条 理事および役員の選挙

第 1 節 役員を選挙すべき会合の 1 カ月前の例会において、その議長たる役員は会員に対して、会長（次々年度）、副会長、幹事、会計および _____ 名の理事を指名することを求めなければならない。その指名は、クラブの決定するところに従って指名委員会または出席全会員のいずれか一方または双方によって行うことができる。もし指名委員会を設けるように決定されたならば、かかる委員会はクラブの定めるところに従って設置されなければならない。適法に行われた指名は各役職ごとにアルファベット順に投票用紙に記載されて年次総会において投票に付せられるものとする。投票の過半数を獲得した会長、副会長、幹事および会計がそれぞれ該当する役職に当選したものと宣言されるものとする。投票の過半数を得た _____ 名の理事候補が理事に当選したものと宣言されるものとする。前記の投票によって選挙された会長候補は、会長ノミニーとなるものとし、その選挙の後の次の 7 月 1 日に始まる年度に、会長ノミニーのまま理事会のメンバーを務め、理事会のメンバーを務めた年度直後の 7 月 1 日に、会長に就任するものとする。会長ノミニーは、後任者の選挙が行われた後に会長エレクトの役職名が与えられるものとする。

第 2 節 選挙された役員および理事に直前会長を加えて理事会を構成するものとする。選挙によって決定した理事エレクトは、1 週間以内に会合してクラブ会員の中から会場監督を務める者を選任しなければならない。

第 3 節 理事会またはその他の役職に生じた欠員は、残りの理事の決定によって補填すべき

ものとする。

第 4 節 役員エレクトまたは理事エレクトの地位に生じた欠員は、残りの理事エレクトの決定によって補填すべきものとする。

第 4 条 役員の任務

第 1 節 会長。本クラブの会合および理事会の会合において議長を務め、その他通常その職に付随する任務を行うことをもって会長の任務とする。

第 2 節 会長エレクト。会長エレクトは理事会のメンバーとしての任務およびその他会長または理事会によって定められる任務を行うものとする。

第 3 節 副会長。会長不在の場合は本クラブの会合および理事会の会合において議長を務め、その他通常その職に付随する任務を行うことをもって副会長の任務とする。

第 4 節 幹事。幹事の任務は、会員の記録を整理保管し、会合における出席を記録し、クラブ、理事会および委員会の諸会合の通知を発送し、これらの会合の議事録をつくってこれを保管し、毎年 1 月 1 日および 7 月 1 日現在の半期会員報告、半期報告を提出した 7 月 1 日または 1 月 1 日よりも後にクラブ会員に選ばれた正会員について 10 月 1 日と 4 月 1 日現在の四半期会員報告、会員資格変更報告、毎月の最終例会の後 15 日以内に地区ガバナーに対して行わなければならない月次出席報告を含む、諸種の義務報告を RI に対して行い、RI 公式雑誌の購読料を徴収してこれを RI に送金し、その他通常その職に付随する任務を行うにある。

第 5 節 会計。会計の任務は、すべての資金を管理保管し、毎年 1 回およびその他理事会の要求あるごとにその説明を行い、その他通常その職に付随する任務を行うにある。その職を去るに当たっては会計はその保管するすべての資金、会計帳簿、その他あらゆるクラブ財産を、その後任者または会長に引き継がなければならない。

第 6 節 会場監督。会場監督の任務は通常その職に付随する任務、およびその他会長または理事会によって定められる任務とする。

第 5 条 会合

第 1 節 年次総会。本クラブの年次総会は毎年_____に開催されるものとする。そしてこの年次総会において次年度の役員および理事の選挙を行わなければならない。

(注：標準ロータリー・クラブ定款第 5 条第 2 節は、「役員を選挙するための年次総会は、12 月 31 日もしくはそれ以前に開催されなければならない」と規定している)

第 2 節 本クラブの毎週の例会は_____曜日_____時に開催するものとする。例会に関するあらゆる変更または例会の取消はすべてクラブの会員全部に然るべく通告されなければならない。本クラブの瑕疵なき会員はすべて、名誉会員（または標準ロータリー・クラブ定款第 8 条第 3 節および第 4 節の規定に基づき、出席を免除された会員）を除き、例会の当日、その出席または欠席が記録され、その出席は、本クラブまたは他のロータリー・クラブにおいて、その例会に充当された時間の少なくとも 60 パーセントに出席していたことが実証されるか、もしくは標準ロータリー・クラブ定款第 8 条第 1 節と第

2 節の規定によるものでなければならない。

第 3 節 会員総数の 3 分の 1 をもって本クラブの年次総会および例会の定足数とする。

第 4 節 定例理事会は毎月_____に開催されるものとする。臨時理事会は会長がその必要ありと認めたとき、または 2 名の理事からの要求があるとき、会長によって招集されるものとする。但しその場合然るべき予告が行われなければならない。

第 5 節 理事の過半数をもって理事会の定足数とする。

第 6 条 入会金および会費

第 1 節 入会金は_____とし、入会承認に先んじ納入すべきものとする。

第 2 節 会費は年額_____とし、各半年ごとの各支払額のうちの一部は各会員の RI 公式雑誌の購読料に充当するという諒解の下に、毎年 2 回 7 月 1 日および 1 月 1 日に納入すべきものとする。

第 7 条 採決の方法

本クラブの議事は、役員および理事を投票によって選挙する場合を除き、*口頭による採決をもって処理されるものとする。理事会は、特定の決議案を、口頭ではなく投票により処理することを決定することができる。

(注：口頭による採決とはクラブの投票が発声方式での同意によって行われた場合と定義する)

第 8 条 四大奉仕部門

四大奉仕部門は、本ロータリー・クラブの活動のための理念と実践の枠組みである。それはクラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、および国際奉仕である。本クラブは、四大奉仕部門の各部門に積極的に取り組むこととする。

第 9 条 委員会

クラブ委員会は、四大奉仕部門に基づいた年次および長期的な目標を推進する責任を持つ。会長エレクト、会長および直前会長は、指導の継続と計画の引継ぎを確約するために、協力すべきである。一貫性を保持するため、実行可能であれば、委員会委員は同じ委員会に 3 年間留任されるべきである。会長エレクトは任期が始まる前に、委員会の空席を補填するために委員を任命し、委員会委員長を任命し、企画会議を設ける責務がある。委員長は委員会委員としての経験者を任命することが推奨される。

常設委員会の任命は次の通りである。

・ 会員増強委員会

この委員会は、会員の勧誘と退会防止に関する包括的な計画を立て、実施するものである。

・ クラブ広報委員会

この委員会は、一般の人々にロータリーについての情報を提供し、クラブの奉仕プロジェクトと奉仕活動を推進する計画を立て、実施するものである。

・ クラブ管理運営委員会

この委員会はクラブの効果的な運営に関連する活動を実施するものである。

・奉仕プロジェクト委員会

この委員会は、地元地域社会および他国の地域社会におけるニーズに応える教育的、人的および職業的プロジェクトを企画し、実施するものである。

・ロータリー財団委員会

この委員会は、資金的寄付とプログラムへの参加を通じてロータリー財団を支援する計画を立て、実施するものである。

その他、必要に応じて特別委員会を設けることができる。

(a) 会長は、職権上すべての委員会の委員となるものとし、その資格において委員会に付随するあらゆる特典をもつものとする。

(b) 各委員会は本細則によって付託された職務およびこれに加えて会長または理事会が付託する事項を処理すべきものとする。理事会によって特別の権限を与えられた場合を除き、これらの委員会は、理事会に報告してその承認を得るまでは行動してはならない。

(c) それぞれの委員長はその委員会の定例会合に対して責任をもち、委員会の仕事を監督、調整する任務をもち、委員会の全活動について理事会に報告するものとする。

(注：上記の委員会構成は、地区リーダーシップ・プランおよびクラブ・リーダーシップ・プランに沿ったものである。クラブは、その奉仕と親睦のニーズを満たすために必要な委員会を設置する裁量権をもつ。そのような任意の委員会の見本一覧表は、「クラブ委員長の手引き」に記載されている。クラブは必要に応じて、独自の委員会構成を考案することができる)。

第 10 条 委員会の任務

会長は、その任期中の諸委員会の任務を確定し、評価するものとする。各委員会の任務を発表するにあたり、会長は既存の適切な RI 文書を参照するものとする。奉仕プロジェクト委員会はその年度計画を考案する際、職業奉仕、社会奉仕および国際奉仕の部門を考慮することとする。それぞれの委員会は、具体的な権限、明確な目標、および各年度の初めにその年度内に実施する行動計画を設定するものとする。上述の通り、ロータリー年度の開始に先立ち、クラブ委員会のための推奨事項、委託任務、目標、計画に関し理事会に対し説明発表するための準備を整えるにあたり、必要な指導を施すのは会長エレクトの主要責務である。

第 11 条 出席義務規定の免除

理事会に対して書面をもって、正当かつ十分な理由を具して申請することによって、会員は出席義務規定の免除が与えられ、一定期間を限り本クラブの例会出席を免除される。

(注：このような出席義務規定の免除は会員身分の喪失を防ぐためのものである。しかし本クラブに対してその会員を出席同様にみなすためのものではない。その会員が他のクラブの例会に出席しない限り、出席を免除された会員は欠席と記録されなければならない。但し標準ロータリー・クラブ定款第 8 条第 3 節および第 4 節の規定に基づいて認められた

欠席は本クラブの出席記録に算入されない)

第 12 条 財務

第 1 節 各会計年度の開始に先立ち、理事会はその年度の収支の予算を作成しなければならない。その予算は、これらの費目に対する支出の限度となるものとする。但し、理事会の議決によって別段の指示がなされた場合はこの限りでない。予算は 2 つの部分に分けられるものとする。すなわち、クラブ運営に関する予算と、慈善・奉仕活動運営に関する予算である。

第 2 節 会計は本クラブの資金をすべて理事会によって指定される銀行に預金しなければならない。クラブ資金は 2 つの部分に分けられるものとする。すなわち、クラブ運営と奉仕プロジェクトに関する資金である。

第 3 節 すべての勘定書は、会計、または理事もしくは権限をもつ役員 2 名の承認を受けたその他の役員によって支払われるものとする。

第 4 節 すべての資金業務処理は、毎年 1 回有資格者によって全面的な検査が行われるものとする。

第 5 節 資金を預りあるいはこれを取り扱う役員は、本クラブの資金の安全保管のために理事会が要求する保証を提供しなければならない。保証の費用は本クラブが負担するものとする。

第 6 節 本クラブの会計年度は 7 月 1 日より 6 月 30 日に到る期間とし、会費徴収の目的のために、これを 7 月 1 日より 12 月 31 日に至る期間および 1 月 1 日より 6 月 30 日に至る期間の二半期に分けるものとする。人頭分担金と RI 公式雑誌購読料の支払は、毎年 7 月 1 日および 1 月 1 日に、それぞれ当日の本クラブ会員数に基づいて行われるものとする。

第 13 条 会員選挙の方法

第 1 節 本クラブの正会員によって推薦された会員候補者の氏名は、書面をもって、本クラブ幹事を通じ、理事会に提出されるものとする。移籍する会員または他クラブに属していた元クラブ会員は、元クラブによって正会員に推薦されてもよい。この推薦は、本条に別な定めのある場合を除き、漏らしてはならない。

第 2 節 理事会は、その被推薦者が標準ロータリー・クラブ定款の職業分類と会員資格の条件をすべて満たしていることを確認するものとする。

第 3 節 理事会は、推薦状の提出後 30 日以内にその承認または不承認を決定し、これをクラブ幹事を通じて、推薦者に通告しなければならない。

第 4 節 理事会の決定が肯定的であった場合は、被推薦者に対し、ロータリーの目的および会員の特典と義務について説明しなければならない。この説明の後、被推薦者に対し、会員申込用紙に署名を求め、また、本人の氏名および本人に予定されている職業分類をクラブに発表することについて承諾を求めなければならない。

第 5 節 被推薦者についての発表後 7 日以内に、理事会がクラブ会員（名誉会員を除く）

の誰からも、推薦に対し、理由を付記した書面による異議の申し立てを受理しなかった場合は、その日とは、名誉会員でないなら、本細則に定める入会金を納めることにより、会員に選ばれたものとみなされる。理事会に対し異議の申し立てがあった場合は、理事会は、次の理事会会合において、この件について票決を行うものとする。異議の申し立てがあったにもかかわらず、入会が承認された場合は、被推薦者は、名誉会員でないなら、所定の入会金を納めることにより、クラブ会員に選ばれたものとみなされる。

第 6 節 このような選挙後に、クラブ会長は、当該会員の入会式を行い、クラブ幹事は当該会員に対して会員証を発行し、ロータリー情報資料を提供するものとする。その他、会長もしくは幹事が新会員に関する情報を RI に報告し、会長が、当該新会員がクラブに溶け込めるよう援助する会員を 1 名指名し、同新会員をクラブ・プロジェクトまたは行事に配属する。

第 7 節 クラブは、標準ロータリー・クラブ定款に従い、理事会により推薦された名誉会員を選ぶことができる。

第 14 条 決議

クラブは、理事会によって審議される前に、本クラブを拘束するいかなる決議または提案を審議してはならない。もしかかる決議または提案がクラブの会合で提起されたならば、討議に付することなく理事会に付託しなければならない。

第 15 条 議事の順序

開会宣言

来訪者の紹介

来信、告示事項およびロータリー情報

委員会報告（もしあれば）

審議未終了議事

新規議事

スピーチその他のプログラム

閉会

第 16 条 改正

本細則は、定足数の出席する任意の例会において、出席会員の 3 分の 2 の賛成投票によって改正することができる。但し、かかる改正案の予告は当該例会の少なくとも 10 日前に各会員に郵送されていなければならない。標準ロータリー・クラブ定款および RI の定款、細則と背馳するとき改正または条項追加を本細則に対して行うことはできない。

⑤ クラブ強化と地区改革

国際ロータリー第2840地区

2005・2006年度

ガバナー 曾我 隆一

(第34回ロータリー・ゾーン研究会 分科会『ロータリー情報とクラブ強化・CLP』で発表)

2840 地区現ガバナーの曾我隆一でございます。

たまたま今日は同期のガバナーの皆様方が多数本席にいらっしゃっております。CLPについての対応が、現ガバナーとして皆様共通の悩みであると存じます。どこまでそれに対して的確なお話ができるか分かりませんが、私が所属する前橋ロータリークラブが、2003年から取り組んできましたクラブの改革、クラブ組織の強化をベースにしまして、今現在、私がガバナーとして地区の改革にどのように取り組んでいるか、ご参考に申し上げます。

前橋クラブのクラブ組織強化の取り組みにつきましては、昨年11月の広島でのゾーン研究会においてご紹介いただきました。21世紀特別委員会を2003年12月に立ち上げ、会員満足度を調査いたしました。前橋クラブ創立50周年を迎え、会員数がちょっと減り気味だということで現状を総点検して、魅力あるロータリークラブ作りをみんなで考えようということで始めたわけでございます。2004年の1月から6月まで9回の会合を持ち、「会員満足度アンケート」や「クラブ活力テスト」の結果を分析して、

クラブのあるべき姿の議論を重ね、最終的には『クラブ改革提言』という形にまとめました。

「会員満足度アンケート」は、RI所定の設問項目を一部改変し、後で分析・比較ができるようにしました。「クラブ活力テスト」は、2003-04年度の地区会員増強委員会がオリジナルで開発したものを使用しました。

調査項目		現状 (2004年)	目標 (2005年)
1. 会員満足度	A	前橋クラブは、クラブの改革・強化により、会員満足度が向上している。特に、クラブの改革・強化により、会員満足度が向上している。特に、クラブの改革・強化により、会員満足度が向上している。	クラブの改革・強化により、会員満足度が向上している。特に、クラブの改革・強化により、会員満足度が向上している。特に、クラブの改革・強化により、会員満足度が向上している。
2. クラブ活力	B	前橋クラブは、クラブの改革・強化により、クラブ活力が向上している。特に、クラブの改革・強化により、クラブ活力が向上している。特に、クラブの改革・強化により、クラブ活力が向上している。	クラブの改革・強化により、クラブ活力が向上している。特に、クラブの改革・強化により、クラブ活力が向上している。特に、クラブの改革・強化により、クラブ活力が向上している。
3. 地区貢献	C	前橋クラブは、クラブの改革・強化により、地区貢献が向上している。特に、クラブの改革・強化により、地区貢献が向上している。特に、クラブの改革・強化により、地区貢献が向上している。	クラブの改革・強化により、地区貢献が向上している。特に、クラブの改革・強化により、地区貢献が向上している。特に、クラブの改革・強化により、地区貢献が向上している。
4. 財政状況	D	前橋クラブは、クラブの改革・強化により、財政状況が向上している。特に、クラブの改革・強化により、財政状況が向上している。特に、クラブの改革・強化により、財政状況が向上している。	クラブの改革・強化により、財政状況が向上している。特に、クラブの改革・強化により、財政状況が向上している。特に、クラブの改革・強化により、財政状況が向上している。
5. 広報活動	E	前橋クラブは、クラブの改革・強化により、広報活動が向上している。特に、クラブの改革・強化により、広報活動が向上している。特に、クラブの改革・強化により、広報活動が向上している。	クラブの改革・強化により、広報活動が向上している。特に、クラブの改革・強化により、広報活動が向上している。特に、クラブの改革・強化により、広報活動が向上している。

「クラブ活力テスト」で組織としてのクラブの現状(活性度)を把握する。



その結果...
前橋RCは、
Cレベル

これは、クラブ活力テストを実施したときの自己評価であります。先ほどの2530地区の地区大会のアンケートでも、70、80%はやはり満足していないとのことでしたが、うちのクラブでも同じような状況でございました。50年の「歴史と伝統」を誇るクラブの現状に対する自己評価は、Cレベルということで、決して満足できる水準ではありません。

こうした「会員満足度アンケート」

や「クラブ活力テスト」の結果を踏まえて、それでは、クラブと会員のあるべき姿はどういうものか議論し、「クラブ・会員の理想像」ということで整理いたしました。

結局、クラブ改革とは、この理想（「理想像」）と現実（現状認識）とのギャップを埋めてゆくプロセスということになります。会員が充実したロータリーライフを享受することができ、かつ社会的評価（存在価値）の高いクラブに再生する。リバイタライズ（Revitalize）という言葉がありますけれども、再生・再活性化するというのが、クラブ改革の目標です。

改革提言の方向性として、長期ビジョンの策定、年度を越えた継続的改革の推進、ロータリー理念の理解、ロータリアンとしての成長促進、例会の充実、委員会の統合・再編による機能強化、クラブ運営のスリム化、地域社会に対する奉仕活動の強化、等々が上げられました。

R I が公表した C L P には 9 ステップの実行策が提示されていますが、これと前橋クラブで考えた改革の方向性や具体策が驚くほど重なり合っています。R I の理事会で C L P が決定したのは前橋クラブの改革提言がまとめられた半年後の 2004 年 11 月です。これは自慢ではありません。私どもが C L P を意識せずに（知らずに）、C L P の提案に近い結論を得たという事は、全世界のロータリークラブが直面する共通の課題に私どもも行き

当たったということだと考えています。

前橋クラブの 21 世紀委員会活動は、今年で 3 年目を迎えています。2 年目には、第 1 期で提案したクラブ改革の具体策検討ということで、クラブ細則の見直しも含めて『クラブ改革提言パート 2』をまとめました。

クラブ改革が始まる前の会員意識調査「会員満足度アンケート」と、その 1 年後具体的なクラブ改革推進中の第 2 回目のアンケート結果を比較分析しておりますので、ご紹介します。

会員満足度の向上（2004 年→2005 年）

〈第 1 回、第 2 回 会員満足度アンケート 結果比較分析〉

1. クラブ組織の現状に対する評価が大幅に高まった。
2. R I や地区の提唱する諸活動への関心・理解が深まった。（関わる意識が高まった）
3. クラブの諸活動に積極的（主体的）に参加するようになった。
4. クラブの活動およびプロジェクトへの参加の（会員自身の）満足度が高まった。
5. ロータリー財団・米山奨学会への寄付金の負担感が減った。
6. 会員は毎週の例会を楽しんでいる。
7. 会員はクラブの会合を改善することに意欲的である。
8. 会員家族のロータリーに対する関心が高まった。

一言で申しますと、会員満足度は 1 年間で大幅に向上いたしました。クラブ組織の現状に対する評価（スコア）が大幅に上がり、R 財団や米山も含めて R I ・地区の提唱する諸活動への関心・理解度が深まりました。会員は例会を楽しんで出席するようになり、委員会や奉仕活動にも積極的に参加するようになりました。このように改革の動きを継続することによって、会員満足度は大幅に改善されました。会員数が改革前は 100 名を割っておりましたが、今現在 105 名前後で推移しているのも、その結果ではないかと思っております。

ここで私としてはガバナーになるにあたりまして、会員満足の向上を図れば、クラブ組織は強化できるという確信を持ったわけでございます。そしてクラブの現状を正しく認識し、危機感を共有するということが非常に大事であると思いました。クラブの活動に主体的に参加すれば、参加する意識が高まれば、非常に会員満足度が高まります。このようにクラブの全体の組織活力が高まると非常に効果的なクラブになるということが分かりました。そこで、わたしのガバナー年度が今年の7月から始まったわけでございますが、地区をどうやって改革していこうかというときに、データベースは私の所属する前橋クラブの今までのいわば実験であります、それを使いまして、地区の改革にステップアップしたわけでございます。

日本の会員減少が続いております。わが地区でも残念ながら毎年100名ずつの会員減少が続いています。それでは、ロータリーの危機の本質はこの会員減少にあるのでしょうか。会員減少というのは危機の結果です。では危機とは何か。それはロータリーの魅力が失われつつある、ロータリーの社会的存在価値が問われていることだと思います。しからば、魅力再生をいかにして実現するかというところでございます。

2840地区では、2003—04年の森田パストガバナーの年度に魅力あるクラブづくりのための21世紀ビジョン

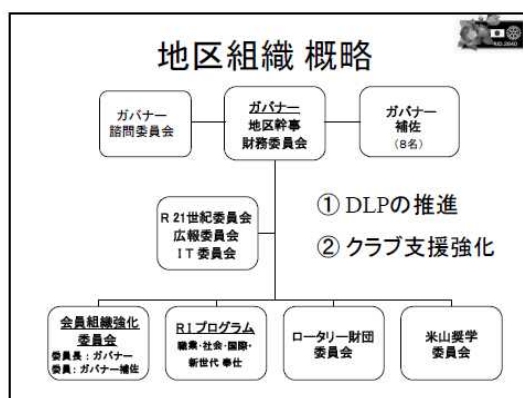
委員会を提唱しました。そして昨年、山崎直前ガバナーの年度では、ちょうど100周年でもあり、基本に戻ろうと、組織・事業の総点検を提唱しました。2005—06年の私の年度では、この地区改革の流れを踏まえて、ロータリーの危機を総合力を発揮して克服すること。クラブの主体性と自立を促進して、クラブ組織を強化・充実すること。そして、会員減少というのは予算・財政上大変大きなインパクトを与えますので、地区組織・地区運営を極力スリム化、簡素化するという必要があるということでございます。

そこでまず、DLPを見直して、極力クラブ支援の体制を強化していこうと考えました。私どもの地区は6分区ありまして、今まで6名のガバナー補佐体制でありましたが、クラブ数のバランスを考えて、分区は変えませんでしたけども、分区のABということで2分区ばかり分けまして、8名にいたしました。そこにそれぞれの優秀な、今まで持ち回り指名でありましたガバナー補佐を、私が長年お付き合いしている中で、優秀で意欲のある方々にガバナー指名ということでお願いをしました。ここら辺は一部に抵抗がありましたが、結果的に非常によかったと思っております。

地区の組織体制も大きく変えました。従来、クラブ奉仕委員会の中に会員増強委員会というのがありましたが、これを会員組織強化委員会と名前を変え独立させました。そして、これは異例だと思いますが、この委員長に

ガバナーの私自身が就任いたしましたし、8名のガバナー補佐に委員になっていただきました。会員組織を強化することがわたしの年度の最大課題であるということを、地区に知らしめたわけでございます。

それと同時に、地区とクラブの長期ビジョン策定推進のためにロータリー21世紀委員会を新設いたしました。これは、言わば会員組織強化委員会を補完する参謀本部の役割を担っています。それと、IT委員会を強化いたしました。クラブ事務局やCICOのメーリング・リストなど、ITを活用してコスト削減と情報伝達の円滑化が図れました。それと、公共イメージの向上を図るため、広報委員会を従来よりもバージョンアップいたしました。



地区組織の概略図を見ますと、特に下の組織がなんとなくCLPのクラブ委員会構成に似ているということをCLP公表後に気が付いたわけでございます。一番左に先ほど申し上げました会員組織強化委員会、委員長がガバナー、委員がガバナー補佐でございます。それとRIプログラムで職業

社会・社会奉仕・国際奉仕・新世代奉仕をまとめ、それにロータリー財団・米山奨学を並べて、大きく四つの部門で組織を作りました。21世紀委員会と広報・IT委員会は、その上に参謀本部的に置きました。そして、ガバナー補佐を中心に、DLPを推進し、チームとしてクラブを強力に支援する体制を整えたのでございます。

会員の質の低下につながらない健全な会員増を達成できるように、クラブ組織をいかに強化・充実するかが、従来「会員増強」と訳されてきた「メンバーシップ・デベロップメント」(Membership Development)の本質的なねらいではないかというふうに思っておりまして、それにはクラブ組織をいかに強化するか、会員一人ひとりの資質、能力の開発をいかにするか。それを的確に行なうことによって結果として会員数が増える、と考えたのでございます。「会員増強」イコール「会員組織強化」。そして、クラブの活性化、活力が再びよみがえる。魅力あるクラブへ変身する。会員増は、今申し上げましたクラブ活性化の結果であると捉えております。

そして、地区目標の中にもその結果として、会員純増1名を達成しようというのを謳ったわけでございますが、ただ会員1名増やしようというのではなくて、今申し上げましたような丁寧な説明をしながら、ガバナー補佐を通じてやってまいりました。

RIも、最近は、会員数の増大は、

一つのE(Extend)と3つのR(Recruit、Retain、Revitalize)で実現しようと言っております。



私の年度は、この最後のリバイタライズ（再生・再活性化）を特に強調して打ち出したのでございます。

正直申し上げまして、私はCLPをやろうと大上段に構えているのではなくて、それぞれのクラブが今満足しているのか、それでいいのかと問いかけることが、まず大切なことで、CLPが上からRIから来たからやるんだということに対しては、反対でございます。

昨日からのガバナー会でも出ておりますとおり、それぞれ日本は日本の特徴がありますし、クラブはクラブの特徴がありますので、丸写しをするということは避けなければいけないというのが、私の考え方でございます。

ロータリー21世紀委員会を地区で設けましたが、クラブでもぜひ特別委員会を作って、各クラブで独自に自分たちのクラブをどうしてゆくのかを検討してほしいと、今お願いしているところでございます。

重田RI理事がおっしゃるとおり、

具体的なアクションのツールを用意しないと、かけ声だけではなかなか進みませんので、今年度地区の21世紀委員会では、クラブ強化の支援ツールを用意いたしました。

ガバナー補佐を通じて説明をし、それでも足りないときは、21世紀委員会も同時に出かけていって、委員会で作成した「クラブ組織強化の手引き」の説明をし、実際に「会員満足度アンケート」「クラブ活力テスト」を各クラブに実施をしていただいて、その結果を分析して、またお伺いするといわゆる出前的なやり方を多くっております。

クラブ強化と地区の改革というのは、やってみて分かったのは、まさに同じような考え方でやればよいということです。DLPとCLPというのは、行ったり来たりしている関係で、車の両輪のように一方が動かなければ前に進みません。

冒頭申し上げましたとおり、いかにクラブを活性化するか、会員減少をどうやって防ぐかというところからスタートしたDLP、CLPでないと、地に足がつかないのではないのでしょうか。ですからその範囲内でよく自分のクラブの現状を考えて、必要であれば、地区はお手伝いするツールを用意してあります、という説明をやってまいりました。

それと最後に、今回、先ほど重田理事がおっしゃいました、縦糸は出来ていても、横糸がまだまだ極めて弱いと

私自身も感じております。今回8人のガバナー補佐にお願いしまして、何回となく事前のクラブ会長幹事会を開き、そしてガバナー公式訪問を合同例会方式にさせていただきました。

いろいろこれは賛否あったんでありますけれども、いかに各クラブにほかのクラブの状況、ロータリー情報が入ってないかというのをつくづく感じまして、徹底的に合同でディスカッションをしました。それぞれのクラブのいいところ、問題点を合同でやったんですが、午前中は主に理事レベルの方に集まっていたいて、徹底的にそれぞれのクラブのいいところ悪いところ出し合ってやって、その後、全員が出席する昼食例会でいわゆるガバナーとしての講話をし、基本的な考え方を申し上げた。いかに横糸が通ってなかったというのが実際やってみて分かりました。

公式訪問を一つ一つのクラブでやるよさもちろんあるでしょう。合同例会方式による公式訪問は、この9月から10月にかけて行いました。年度後半には、ガバナー補佐の皆さんと相談し、必要に応じて、各クラブの個別訪問（例会参加）を予定しています。

公式訪問終了後アンケートをとりました。地区内に47クラブありますけれども、約90%のクラブ会長から「今回、合同にしてもらってよかった」「よく他のクラブの状況が分かりました」ということで、賛同いただきまして、私としては、横糸を一つ通す

ことができたなあということを実感しております。

また皆さん方のいろいろなご意見をお聞かせいただければありがたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

第34回ロータリー・ゾーン研究会

分科会『ロータリー情報とクラブ強化・CLP』

2005年11月26日 新高輪プリンスホテル

国際ロータリー第2840地区 クラブ強化と地区改革



RID2840 2005-06年度
ガバナー 曾我 隆一
ロータリー・ゾーン研究会 05.11.26

前橋ロータリークラブの クラブ改革

前橋RCの 会員満足向上活動

2003年12月:「前橋RC 21世紀特別
委員会」(通称:21世紀委員会)の創設。

- ① 前橋RC創立50周年の節目に、クラブ
の現状を総点検する。
- ② 2003-04年度 森田ガバナーが提唱し
た「魅力あるロータリーづくり」に呼応。
- ③ 会員各層参加のプロジェクト。

前橋RC 21世紀委員会 概要

第1期委員会は、2004年1月~6月まで、計9回
の会議を持ち、報告書「クラブ改革提言
ー歴史と伝統を超えて」をまとめた。

2004年2月:「会員満足度アンケート」(第1回)
および「クラブ活カテスト」実施

3月:ロータリー理念勉強会

4月:「クラブ・会員の理想像」作成

6月:第1期報告書完成

変化するスタート50年
ー「歴史と伝統」を超えてー
クラブ改革提言

国際ロータリー第2840地区
前橋ロータリークラブ
21世紀特別委員会 報告書

2004年5月30日

「クラブ活カテスト」 (クラブ組織の自己診断)の実施 〈「クラブ活カテスト」のフレームワーク〉



クラブ改革提言の内容

《改革の方向性》

- ⑥ 地域社会との関わり合いの深い活動・事業を強化する。
- ⑦ クラブ運営はスリム化、事業は変化に対応し選択と集中を心がける。
- ⑧ クラブ運営、役員人事、予算編成、事業計画等の透明性・公平性を高める。
- ⑨ 市民の声(社会のニーズ)を的確に受け止める仕組みをつくる。

* クラブ・リーダーシップ・プラン(CLP) における9ステップの実行策

- 長期計画の立案
- 年間目標の設定
- クラブ協議会の実施
- 地区とクラブの意思疎通
- 指導者の継続性確保
- 細則の見直し
- 親睦の機会
- 奉仕プロジェクト・委員会活動への積極的参加
- 包括的な研修企画

入して学び出して奉仕せよ

ロータリーライプを愛せよう

クラブ改革提言Ⅱ

21世紀特別委員会(Fc12) 報告書
議題一 ロータリー改革
経緯ロータリークラブ

2005年11月28日

前橋RC 21世紀委員会第2期活動

2004年11月

～2005年4月

テーマ: 委員会活動の活性化

: 組織の活性化

: 社会奉仕と広報

2005年2月: 第2回会員満足度アンケート実施

: クラブ細則改定の検討

2005年4月: 第2期報告書

…そして、第3期活動へ

会員満足度の向上(2004年→2005年)

(第1回、第2回 会員満足度アンケート 結果比較分析)

1. クラブ組織の現状に対する評価が大幅に高まった。
2. RI や地区の提唱する諸活動への関心・理解が深まった。(関わる意識が高まった)
3. クラブの諸活動に積極的(主体的)に参加するようになった。
4. クラブの活動およびプロジェクトへの参加の(会員自身の)満足度が高まった。
5. ロータリー財団・米山奨学会への寄付金の負担感が減った。
6. 会員は毎週の例会を楽しんでいる。
7. 会員はクラブの会合を改善することに意欲的である。
8. 会員家族のロータリーに対する関心が高まった。

会員満足の向上を図れば、 クラブ組織は強化できる！

1. クラブの現状の問題点・課題・危機感を共有することで会員の一体感が高まる。
2. ロータリー理念やRIの活動・プログラムに対する理解が深まれば、会員のロータリーへの帰属意識・参加意欲が高まる。
3. 例会・委員会活動や奉仕プロジェクトに主体的に参加すれば(主体的に参加できる機会を多く用意すれば)会員満足度は高まる。
4. 一人一人の会員の満足度(充実感、参画意識、やりがい)を高めて行けば、クラブ全体の組織活力が高まり、効果的なクラブになる。

クラブ改革から、 地区改革へ

第2840地区の現状と課題

- 毎年100人規模の会員減少が続いている。(毎年各クラブ平均2名強)

- しかし、ロータリーの“危機”の本質はこの会員減少にあるのか？

⇒ 会員減少は“危機”の結果！

第2840地区の現状と課題

ロータリーの“危機”とは？

1. ロータリーの魅力が失われつつある。
2. ロータリーの社会的存在価値が問われている。

第2840地区の現状と課題

ロータリーの魅力再生への挑戦

- ・ 2003-04年度(森田年度):
「魅力ある21世紀のロータリー作り」を提唱し、“21世紀ビジョン委員会”の設置を呼びかけた。
- ・ 2004-05年度(山崎年度・ロータリー100周年):
「基本にもどろう！」の方針のもと、組織・事業の再点検を行った。

2005-06年度 地区運営方針

1. 「ロータリーの危機」を、総合力を発揮して克服する。
2. クラブの主体性と自立を促進し、クラブ組織を強化・充実する。
3. 地区組織・地区運営をスリム化・簡素化する。

地区組織の見直し

DLPの推進とクラブ支援体制の強化

- ガバナー補佐を8名に増員。(←6分区分6名)
- 「会員組織強化委員会」(←会員増強委員会)の機能強化。
- 「ロータリー21世紀委員会」の新設。
- 「IT委員会」の機能強化。
(DICOからCICOへ、メーリング・リストによる情報提供)
- 「広報委員会」の機能強化。

地区組織 概略



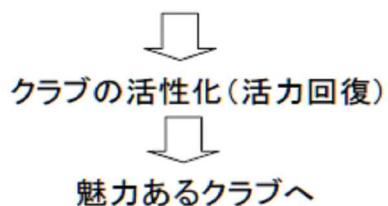
Membership Development とは

会員の質の低下につながら
ない健全な会員増を達成でき
るよう、クラブ組織を強化・充
実すること。

「会員増強」の真意

1. クラブ組織の強化
2. 会員一人一人の資質・
能力の開発
3. 活動の結果としての会
員数の増大

「会員増強」=会員組織強化



会員増は、クラブ活性化の 結果

《魅力あるクラブづくりとクラブ組
織強化を推進し、
各クラブ会員純増1名を達成し
ましょう。》

(2005-06年度 地区目標 4)

* 会員数増大の法則 (RI)

会員数の増大
membership = E + 3R

E	Extend	拡大
R	Recruit	新会員の勧誘
R	Retain	退会防止
R	Revitalize	再活性化

© Rotary International 1105

クラブ・リーダーシップ・プラン

- 今年度は、地区内各クラブにCLP
の理解・浸透を図る年度とする。
- 組織強化とCLPに基づくクラブ組
織づくりを検討する特別委員会の
設置を、各クラブにお願いしている。
(→ロータリー21世紀委員会)



クラブ組織強化支援ツールの提供

支援ツールとして、

- ・「クラブ組織強化の手引き」
- ・「会員満足度アンケート」
- ・「クラブ活力テスト」(2005年版)
- ・ロータリー研修テキスト 等

(ロータリー21世紀委員会より各クラブへ)



クラブ強化と地区 改革は表裏一体

DLP ⇄ CLP



ご清聴ありがとうございました。

国際ロータリー第2840地区
クラブ強化と地区改革

RID2840 2005-06年度

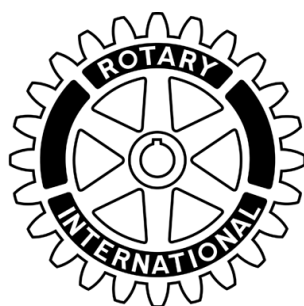
ガバナー 曾我隆一

ロータリー・ゾーン研究会05.11.26

6. 21 世紀特別委員会 PARTIII 委員名簿

会員名		職業分類	会員歴
*曾我 隆一	2005－06 年 RID2840 がバナー	製粉	29 年
*江原 毅	パスト会長（2003－04）	倉庫	23 年
*山田 美光	直前会長（2004－05）	建築設計	22 年
狩野 議一		建築資材販売	19 年
*平出 昌男	2005－06 年 会長	紙卸売	17 年
池畠 弘尚		紙製品加工	17 年
*吉田 勝彦	会長エレクト	鉄構工業	15 年
鳥本 安彦	21 世紀特別委員会 委員長	住宅建築	15 年
藤澤 茂		塗装工事	14 年
板垣 忍		社会保険労務士	13 年
小林 昭雄		生涯教育	12 年
平方 宏		木材販売	10 年
本田 博己	21 世紀特別委員会 副委員長	乳製品販売	10 年
福島 英人		不動産	7 年
関口 進也	2005－06 年 幹事	冷暖房工事	4 年
紺 正行		弁護士	3 年
望月 和子		皮膚科医	3 年
鴻田 敦		税理士	3 年
萩原 哲		新聞	2 年
奥野 和義		石材業	2 年
高山 芳典		住宅建築	1 年

会員歴順に掲載 会員歴は 2006 年 6 月現在 *印は、オブザーバー



前橋ロータリークラブ
21 世紀特別委員会 PartIII